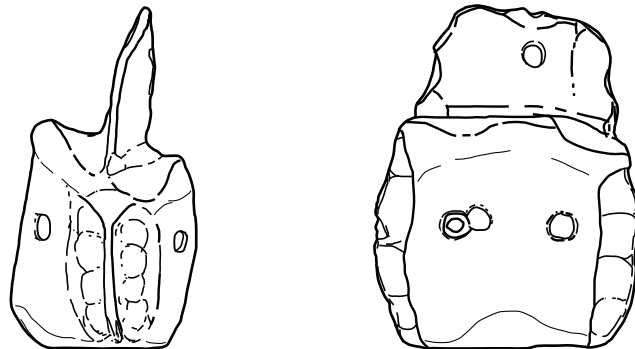


袋井駅南土地区画整理事業
に伴う発掘調査報告書2

大門遺跡

袋井駅南土地区画整理事業に伴う
第15～29次発掘調査報告書



2024

静岡県袋井市教育委員会

例 言

1. 本書は、静岡県袋井市高尾に所在する大門遺跡の令和元（平成31年度）・2年度発掘調査報告書である。
2. 調査は、袋井駅南都市拠点土地地区画整理事業に伴って袋井市袋井駅南都市拠点土地地区画整理組合（理事長 門名正樹）から依頼を受け、袋井市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は袋井市高尾 1100番ほかを対象として実施し、その合計調査面積は 9,536㎡である。
4. 発掘調査は袋井市教育委員会生涯学習課の原未貴を調査担当者とし、静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課の指導を得て実施した。
5. 発掘調査期間及び資料整理期間は下記のとおりである。

発掘調査（第15次現地調査）	平成31年 3 月 5 日	～	平成31年 4 月21日
（第16次現地調査）	令和元年 5 月 7 日	～	令和元年 5 月31日
（第17次現地調査）	令和元年 6 月 3 日	～	令和元年 8 月22日
（第18次現地調査）	令和元年 8 月21日	～	令和元年10月18日
（第19次現地調査）	令和元年10月15日	～	令和元年12月 6 日
（第20次現地調査）	令和元年12月 9 日	～	令和 2 年 2 月 7 日
（第21次現地調査）	令和 2 年 2 月12日	～	令和 2 年 3 月17日
（第22次現地調査）	令和 2 年 4 月16日	～	令和 2 年 5 月22日
（第23次現地調査）	令和 2 年 5 月21日	～	令和 2 年 8 月19日
（第24次現地調査）	令和 2 年 6 月24日	～	令和 2 年10月21日
（第25次現地調査）	令和 2 年 8 月18日	～	令和 2 年11月25日
（第26次現地調査）	令和 2 年10月 5 日	～	令和 2 年11月10日
（第27次現地調査）	令和 2 年11月 9 日	～	令和 2 年12月21日
（第28次現地調査）	令和 3 年 1 月 8 日	～	令和 3 年 2 月25日
（第29次現地調査）	令和 3 年 1 月29日	～	令和 3 年 3 月10日
整理作業	平成31年 4 月15日	～	令和 3 年 2 月28日

6. 発掘調査および本書の発刊に係わる事務は袋井市教育委員会生涯学習課文化財係が担当した。
7. 調査体制

発掘調査実施機関 袋井市教育委員会

令和元年度（平成31年度）

教 育 長	鈴 木	典 夫
教 育 部 長	伊 藤	秀 志
生涯学習課長	杉 山	明 子
生涯学習課主幹	村 田	昭 弘
生涯学習課主幹		
兼文化振興係長	白 澤	崇
主 任 主 査	水 野	雅 彦
学 芸 員	北 嶋	未 貴（調査担当）
臨 時 職 員	鈴 木	寿美子

令和2年度

教 育 長	鈴 木	一 吉
教 育 部 長	伊 藤	秀 志





生涯学習課長	村田秀明	
生涯学習課主幹	豊田ますえ	
生涯学習課主幹		
兼文化振興係長	白水澤崇	
主任主査	水野雅彦	(調査担当)
学芸員	北嶋未貴	
臨時職員	鈴木寿美子	
臨時職員	永井義博	
令和5年度整理報告		
教 育 長	鈴木一吉	
教 育 部 長	石黒克明	
生涯学習課長	大庭尚文	
生涯学習課補佐	岡本美奈子	
生涯学習課参事		
兼文化財係長	白水澤崇	
主任主査	水野雅彦	(整理責任者)
主任学芸員	原未貴	
主任学芸員	杉山侑暉	
主任学芸員	深澤麻衣	
臨時職員	鈴木寿美子	
臨時職員	永井義博	

8. 本書の執筆及び編集は袋井市教育委員会生涯学習課文化財係の原未貴、深澤麻衣、水野雅彦が行った。なお、遺構の説明については、調査番号順ではなく、調査区が隣り合い、近接する調査区にまたがる遺構はまとめて報告する。
9. 本書で用いた調査区全景写真は株式会社フジヤマにより撮影されたもので、遺構は原が撮影し、遺物については、水野及び井澤皇暉が撮影したものである。
10. 本書に使用した遺構の実測図は、株式会社フジヤマが行った写測図を使用したものである。また、出土土器実測図についても株式会社フジヤマに委託し作成した。
11. 発掘調査によって出土した遺物や関係資料・記録はすべて袋井市教育委員会が保管している。
12. 発掘調査・遺物整理従事者（順不同・敬称略）
 岩本愛子、岡山茂樹、加藤和秋、金原正治、金原知一、永井攻、松本宣義、雪島和夫、横田務、金原和夫、植田嘉明、田代佳延、鈴木智、竹内偉夫、松下博、石川裕文、塚本遼太郎、小島仁、鈴木由美子、川島誠、藤田信夫、藤田敏子、阿部菊朗、鈴木康夫、後藤保夫、名倉史郎、芝田眞秀、山本信司、山本留美子、牧野由真子、長井由美子、大原ほなみ、河原崎洸希、立木菖、外山真子、井澤皇暉、永井義博
13. 発掘調査にあたっては下記の方々にご教示、ご協力を賜った。（敬称略）
 篠原和大、鈴木敏則、平野吾郎、松井一明、河合修、五島康司、田村隆太郎、溝口彰啓、渡井英誉



凡 例

1. 挿図中のレベルは海拔、方位・測量図については国土座標真北（世界測地系）を使用している。
2. 本書で用いた色彩に関する用語、記号は新版『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1993）をもとに標記した。
3. 遺構平面図・断面図の縮尺は、図中にスケール等で示した。
4. 検出した遺構の下記の記号で表す。
S A＝柵跡、S B＝竪穴住居跡、S D＝溝、S E＝井戸跡、S F＝道路跡、S K＝土坑、S H＝堀立柱建物跡、S P＝ピット、S X＝その他の遺構、S Z＝方形周溝墓・墳墓
5. 挿図中で「S」は礫、「P」は土器、「C」は炭化物を示す。
6. 実測図を掲載した弥生土器・土師器・須恵器等の土器及び土製品・金属製品・石器には、それぞれ通し番号を付し、文中・遺構図版で共通して用いている。
7. 本書では、掲載遺物実測図中に以下のような網掛けを用いた。

〔遺物断面〕

	弥生土器・古式土師器・土師器・土師質土器
	須恵器
	灰釉陶器・中世陶器
	土製品・石製品・木製品

〔遺物表面〕

	灰釉
	赤彩

目 次

例言

凡例

目次

第1章 遺跡の位置と環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
3. 大門遺跡の調査履歴	3
第2章 事業にいたる経緯	4
第3章 調査の方法と経過	6
1. 調査の方法	6
2. 調査日誌抄	7
第4章 発掘調査の成果	8
1. 調査範囲について	8
2. 第15次調査	9
2-1. 弥生時代の遺構・遺物	
2-2. 古墳時代の遺構・遺物	
2-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
3. 第16次調査	12
3-1. 弥生時代の遺構・遺物	
3-2. 古墳時代の遺構・遺物	
3-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
4. 第17次調査	16
4-1. 弥生時代の遺構・遺物	
4-2. 古墳時代の遺構・遺物	
5. 第18次調査	34
5-1. 弥生時代の遺構・遺物	
5-2. 古墳時代の遺構・遺物	
5-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
6. 第19次調査	43
6-1. 弥生時代の遺構・遺物	
6-2. 古墳時代の遺構・遺物	
6-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
7. 第20次調査	53
7-1. 弥生時代の遺構・遺物	

7-2. 古墳時代の遺構・遺物	
8. 第21次調査	65
8-1. 古墳時代の遺構・遺物	
8-2. 奈良時代以降の遺構・遺物	
9. 第22次調査	69
9-1. 弥生時代の遺構・遺物	
9-2. 古墳時代の遺構・遺物	
9-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
10. 第23次調査	77
10-1. 弥生時代の遺構・遺物	
10-2. 古墳時代の遺構・遺物	
11. 第24次調査	87
11-1. 弥生時代の遺構・遺物	
12. 第25次調査	97
12-1. 弥生時代の遺構・遺物	
12-2. 古墳時代の遺構・遺物	
13. 第26次調査	103
13-1. 弥生時代の遺構・遺物	
13-2. 奈良時代以降の遺構・遺物	
14. 第27次調査	108
14-1. 弥生時代の遺構・遺物	
15. 第28次調査	116
15-1. 弥生時代の遺構・遺物	
15-2. 古墳時代の遺構・遺物	
16. 第29次調査	125
16-1. 弥生時代の遺構・遺物	
16-2. 古墳時代の遺構・遺物	
第5章 まとめにかえて	132
引用参考文献一覧	
写真図版	
抄録	

挿図目次

図 1 周辺遺跡分布図	2	図 54 第 20 次調査区 SD27・28	6 0
図 2 袋井駅南土地区画整理事業の範囲と大門遺跡	5	図 55 第 20 次調査区遺物実測図 1	6 1
図 3 令和元年度～2 年度調査区位置図	5	図 56 第 20 次調査区遺物実測図 2	6 2
図 4 第 15～29 次調査区全体図	8	図 57 第 20 次調査区 SH51 SK27 SP20-253	6 3
図 5 第 15 次調査区全体図	9	図 58 第 20 次調査区遺物実測図 3	6 4
図 6 第 15 次調査区 SB16・17	1 0	図 59 第 21 次調査区全体図	6 5
図 7 第 15 次調査区 SH30・31 遺物実測図	1 1	図 60 第 21 次調査区 SH52	6 6
図 8 第 16 次調査区全体図	1 2	図 61 第 21 次調査区 SH53 SA10～12	6 7
図 9 第 16 次調査区 SB18	1 3	図 62 第 21 次調査区 SK28 SP21-210 遺物実測図	6 8
図 10 第 16 次調査区 SK 9・10 SH32	1 4	図 63 第 22 次調査区全体図	6 9
図 11 第 16 次調査区 SH33	1 5	図 64 第 22 次調査区 SB24	7 0
図 12 第 17 次調査区全体図	1 7	図 65 第 22 次調査区 SB22・23	7 1
図 13 第 17 次調査区 SZ 1	1 8	図 66 第 22 次調査区 SH54	7 2
図 14 第 17 次調査区 SZ 2	1 9	図 67 第 22 次調査区 SH55 SD29	7 3
図 15 第 17 次調査区 SZ 3	2 0	図 68 第 22 次調査区 SK29 SP22-245 SB25	7 4
図 16 第 17 次調査区 SK11～1	2 1	図 69 第 22 次調査区 SB26 SD30	7 5
図 17 第 17 次調査区 SH34	2 2	図 70 第 22 次調査区遺物実測図	7 6
図 18 第 17 次調査区 SH35・36 SK14	2 3	図 71 第 23 次調査区全体図	7 7
図 19 第 17 次調査区 SH37 SK13 SP17-001	2 4	図 72 第 23 次調査区 SH56・57	7 9
図 20 第 17 次調査区遺物実測図 1	2 5	図 73 第 23 次調査区 SH58 SK30・31	8 0
図 21 第 17 次調査区遺物実測図 2	2 6	図 74 第 23 次調査区 SK32～35	8 1
図 22 第 17 次調査区遺物実測図 3 SK11 出土写真	2 7	図 75 第 23 次調査区遺物実測図 1	8 2
図 23 第 17 次調査区遺物実測図 4	2 8	図 76 第 23 次調査区遺物実測図 2	8 3
図 24 第 17 次調査区遺物実測図 5	2 9	図 77 第 23 次調査区遺物実測図 3	8 4
図 25 第 17 次調査区遺物実測図 6	3 0	図 78 第 23 次調査区 SB27	8 5
図 26 第 17 次調査区遺物実測図 7	3 1	図 79 第 23 次調査区 SB28 SD31 遺物実測図 4	8 6
図 27 第 17 次調査区遺物実測図 8	3 2	図 80 第 24 次調査区全体図	8 7
図 28 第 17 次調査区遺物実測図 9	3 3	図 81 第 24 次調査区 SB29・30	8 9
図 29 第 18 次調査区全体図	3 4	図 82 第 24 次調査区 SB31・32	9 0
図 30 第 18 次調査区 SB19	3 5	図 83 第 24 次調査区 SB59・60	9 1
図 31 第 18 次調査区 SH38 SK15	3 6	図 84 第 24 次調査区 SH60 SK36～38 SP24-001・24-330	9 2
図 32 第 18 次調査区遺物実測図 1	3 7	図 85 第 24 次調査区遺物実測図 1	9 3
図 33 第 18 次調査区 SH39 遺物実測図 2	3 8	図 86 第 24 次調査区遺物実測図 2	9 4
図 34 第 18 次調査区 SH40・41	3 9	図 87 第 24 次調査区遺物実測図 3	9 5
図 35 第 18 次調査区 SH42・SK16	4 0	図 88 第 24 次調査区遺物実測図 4	9 6
図 36 第 18 次調査区 SA 5～8	4 1	図 89 第 24 次調査区全体図	9 8
図 37 第 18 次調査区遺物実測図 3	4 2	図 90 第 25 次調査区 SB33 SH61	9 9
図 38 第 19 次調査区全体図	4 3	図 91 第 25 次調査区 SH62 SX15 SK39	1 0 0
図 39 第 19 次調査区 SH34・44	4 5	図 92 第 25 次調査区 SH63 SP25-090	1 0 1
図 40 第 19 次調査区 SH45・46	4 6	図 93 第 25 次調査区遺物実測図	1 0 2
図 41 第 19 次調査区 SK17～19	4 7	図 94 第 25 次調査区全体図	1 0 3
図 42 第 19 次調査区 SP29-200 SD24	4 8	図 95 第 26 次調査区 SH64	1 0 4
図 43 第 19 次調査区遺物実測図 1	4 9	図 96 第 26 次調査区 SH65・66	1 0 5
図 44 第 19 次調査区遺物実測図 2	5 0	図 97 第 26 次調査区 SH67 SP26-210・26-290	1 0 6
図 45 第 19 次調査区遺物実測図 3	5 1	図 98 第 26 次調査区遺物実測図	1 0 7
図 46 第 19 次調査区 SD25・26 SK20 遺物実測図 4	5 2	図 99 第 26 次調査区全体図	1 0 8
図 47 第 19 次調査区全体図	5 3	図 100 第 27 次調査区 SB34	1 0 9
図 48 第 20 次調査区 SB20	5 4	図 101 第 27 次調査区 SH68・69	1 1 0
図 49 第 20 次調査区 SB21 SH48	5 5	図 102 第 27 次調査区 SH70 SK40・41	1 1 2
図 50 第 20 次調査区 SH49・50	5 6	図 103 第 27 次調査区 SK42・43 SP27-001・27-002	1 1 3
図 51 第 20 次調査区 SK21・22	5 7	図 104 第 27 次調査区 SZ4	1 1 4
図 52 第 20 次調査区 SK23・24	5 8	図 105 第 27 次調査区遺物実測図	1 1 5
図 53 第 20 次調査区 SK25・26	5 9	図 106 第 27 次調査区全体図	1 1 6

図 107 第 28 次調査区 SH71	・ ・ ・ ・ ・	1 1 7	図 113 第 28 次調査区遺物 SH74	・ ・ ・ ・ ・	1 2 3
図 108 第 28 次調査区 SH72・73	・ ・ ・ ・ ・	1 1 8	図 114 第 28 次調査区 SH75 SX16	・ ・ ・ ・ ・	1 2 4
図 109 第 28 次調査区 SZ5	・ ・ ・ ・ ・	1 1 9	図 115 第 28 次調査区全体図	・ ・ ・ ・ ・	1 2 5
図 110 第 28 次調査区 SK44～47	・ ・ ・ ・ ・	1 2 0	図 116 第 29 次調査区 SH76	・ ・ ・ ・ ・	1 2 6
図 111 第 28 次調査区 SD321	・ ・ ・ ・ ・	1 2 1	図 117 第 29 次調査区 SH77 SK48	・ ・ ・ ・	1 2 7
図 112 第 28 次調査区遺物実測図	・ ・ ・ ・ ・	1 2 2	図 118 第 29 次調査区遺物実測図	・ ・ ・ ・ ・	1 2 8

挿表目次

表 1 大門遺跡・掛之上遺跡発掘調査一覧	・ ・ ・	3	表 4 遺物対比表 2	・ ・ ・ ・ ・	1 2 9
表 2 平成 30 年度発掘調査区一覧	・ ・ ・ ・ ・	4	表 5 遺物対比表 3	・ ・ ・ ・ ・	1 3 0
表 3 遺物対比表 1	・ ・ ・ ・ ・	1 2 8	表 6 遺物対比表 4	・ ・ ・ ・ ・	1 3 1

図版目次

図版 1	1. 第 15 次調査区 全景	図版 15	1. 第 18 次調査区 SH38 東から	図版 28	1. 第 21 次調査区 SP21-220
	2. 第 15 次調査区 SB16 北東から		2. 第 18 次調査区 SK15 北から		2. 第 21 次調査区 SA 南西から
図版 2			3. 第 18 次調査区 SK15 遺物出土状況		3. 第 21 次調査区 SK28 南西から
1. 第 15 次調査区 SB17 北東から		図版 16		図版 29	
2. 第 15 次調査区 SH30 南から		1. 第 18 次調査区 SP18-293		1. 第 21 次調査区 SD 遺物出土状況	
図版 3		2. 第 18 次調査区 SH40・41 北東から		2. 第 22 次調査区 全景	
1. 第 15 次調査区 SH31		3. 第 18 次調査区 SH42 西から		3. 第 22 次調査区 遠景 南から	
2. 第 15 次調査区 SP15-062		図版 17		図版 30	
3. 第 15 次調査区 遠景 南から		1. 第 18 次調査区 SK16 北から		1. 第 22 次調査区 SX 遺物出土状況	
図版 4		2. 第 18 次調査区 SA1～5 西から		2. 第 22 次調査区 SP22-245	
1. 第 16 次調査区 SH32 東から		3. 第 18 次調査区 遠景 北東から		3. 第 22 次調査区 SD29 遺物出土状況	
2. 第 16 次調査区 SK9 北から		図版 18		図版 31	
3. 第 16 次調査区 SK10 南から		1. 第 19 次調査区 全景		1. 第 22 次調査区 SK28 北から	
図版 5		2. 第 19 次調査区 北側 全景		2. 第 22 次調査区 SB23 北から	
1. 第 16 次調査区 全景		3. 第 19 次調査区 SH43 北から		3. 第 22 次調査区 SB22 北から	
2. 第 16 次調査区 全景 北から		図版 19		図版 32	
3. 第 16 次調査区 全景 東から		1. 第 19 次調査区 SH44 北東から		1. 第 22 次調査区 SB22・23 SD30	
図版 6		2. 第 19 次調査区 SH45		2. 第 22 次調査区 SB24 南から	
1. 第 17 次調査区 全景		3. 第 19 次調査区 SH46		3. 第 22 次調査区 SB26 南東から	
2. 第 17 次調査区 SZ1 南東から		図版 20		図版 33	
図版 7		1. 第 19 次調査区 SK17 東から		1. 第 23 次調査区 全景	
1. 第 17 次調査区 SZ1 東溝		2. 第 19 次調査区 SK18 西から		2. 第 23 次調査区 SK34・35 南西から	
2. 第 17 次調査区 SZ1 南溝		3. 第 19 次調査区 SK19 南西から		3. 第 23 次調査区 SK35 遺物出土状況	
3. 第 17 次調査区 SZ1 東溝		図版 21		図版 34	
図版 8		1. 第 19 次調査区 SP19-110 北東から		1. 第 23 次調査区 SK30 西から	
1. 第 17 次調査区 SZ2 北東から		2. 第 19 次調査区 SP-330 東から		2. 第 23 次調査区 SK31	
2. 第 17 次調査区 SZ 西から		3. 第 19 次調査区 SD24 北から		3. 第 23 次調査区 SK33	
図版 9		図版 22		図版 35	
1. 第 17 次調査区 SZ1 東溝		1. 第 19 次調査区 SH47 北西から		1. 第 23 次調査区 SB27 北から	
2. 第 17 次調査区 SZ2 北溝		2. 第 19 次調査区 SD 北から		2. 第 23 次調査区 SB28 南から	
3. 第 17 次調査区 SZ2 西溝		3. 第 19 次調査区 SD 北東から		3. 第 24 次調査区 全景	
図版 10		図版 23		図版 36	
1. 第 17 次調査区 SK11 東から		1. 第 20 次調査区 全景		1. 第 24 次調査区 SB29 南から	
2. 第 17 次調査区 SK12 北から		2. 第 20 次調査区 SB20 北から		2. 第 24 次調査区 SB30 北から	
3. 第 17 次調査区 SK14 北東から		3. 第 20 次調査区 SK21・SH51 南東から		3. 第 24 次調査区 SB31・SK38 南西から	
図版 11		図版 24		図版 37	
1. 第 17 次調査区 SK13 西から		1. 第 20 次調査区 SH50 東から		1. 第 24 次調査区 SB32 東から	
2. 第 17 次調査区 SH34 南西から		2. 第 20 次調査区 SD27 南西から		2. 第 24 次調査区 SK36 南から	
3. 第 17 次調査区 SH35 北東から		3. 第 20 次調査区 SD28 遺物出土状況		3. 第 24 次調査区 SK37 南から	
図版 12		図版 25		図版 38	
1. 第 17 次調査区 SH36		1. 第 20 次調査区 SD28 南西から		1. 第 24 次調査区 SK38 南東から	
2. 第 17 次調査区 SH37 北東から		2. 第 20 次調査区 SK21 南西から		2. 第 25 次調査区 全景	
3. 第 17 次調査区 遺物出土状況 1		3. 第 20 次調査区 SK22 東から		3. 第 25 次調査区 SK39	
図版 13		図版 26		図版 39	
1. 第 17 次調査区 遺物出土状況 2		1. 第 20 次調査区 SK23 北西から		1. 第 25 次調査区 SP25-090	
2. 第 17 次調査区 SP17-001 遺物出土状況		2. 第 20 次調査区 SK24 北西から		2. 第 26 次調査区 全景	
3. 第 17 次調査区 調査風景		3. 第 20 次調査区 SK26 南東から		3. 第 26 次調査区 南側全景	
図版 14		図版 27		図版 40	
1. 第 18 次調査区 全景		1. 第 20 次調査区 SP20-190 東から		1. 第 26 次調査区 北側全景	
2. 第 18 次調査区 SB19 北東から		2. 第 21 次調査区 遠景 南西から		2. 第 26 次調査区 SP26-001	
3. 第 18 次調査区 SP18-265		3. 第 21 次調査区 SH52 北から		3. 第 26 次調査区 SP26-290	

- 図版 41
1. 第 26 次調査区 SP 遺物出土状況
 2. 第 26 次調査区 SP26-210
 3. 第 27 次調査区 全景
- 図版 42
1. 第 27 次調査区 SB34 南から
 2. 第 27 次調査区 SK43 南から
 3. 第 27 次調査区 SK40 南東から
- 図版 43
1. 第 27 次調査区 SZ4 SH69 南東から
 2. 第 27 次調査区 SH68 SP27-002 南西から
 3. 第 27 次調査区 SK42 SH70 北西から
- 図版 44
1. 第 28 次調査区 全景
 2. 第 28 次調査区 SH71・72 東から
 3. 第 28 次調査区 SH75 南東から
- 図版 45
1. 第 28 次調査区 SK44 北から
 2. 第 28 次調査区 SK45 東から
 3. 第 28 次調査区 SK46 南西から
- 図版 46
1. 第 28 次調査区 SZ5 東から
 2. 第 28 次調査区 SD32 北側 南東から
 3. 第 28 次調査区 SD32 遺物出土状況
- 図版 47
1. 第 28 次調査区 SD32 遺物出土状況
 2. 第 29 次調査区 全景
 3. 第 29 次調査区 南側
- 図版 48
1. 第 29 次調査区 SK49 東から
 2. 第 29 次調査区 SK49 北から
 3. 第 29 次調査区 SK48 東から
- 図版 49
1. 第 17 次調査区出土遺物 7-1
 2. 第 17 次調査区出土遺物 7-2
 3. 第 17 次調査区出土遺物 7-3
 4. 第 17 次調査区出土遺物 7-4
 5. 第 17 次調査区出土遺物 7-8
 6. 第 17 次調査区出土遺物 7-9
 7. 第 17 次調査区出土遺物 7-10
 8. 第 17 次調査区出土遺物 7-11
- 図版 50
1. 第 17 次調査区出土遺物 7-12
 2. 第 17 次調査区出土遺物 7-13
 3. 第 17 次調査区出土遺物 7-15
 4. 第 17 次調査区出土遺物 7-16
 5. 第 17 次調査区出土遺物 7-17
 6. 第 17 次調査区出土遺物 7-18
 7. 第 17 次調査区出土遺物 7-19
 8. 第 17 次調査区出土遺物 7-21
- 図版 51
1. 第 17 次調査区出土遺物 7-23
 2. 第 17 次調査区出土遺物 7-24
 3. 第 17 次調査区出土遺物 7-25
 4. 第 17 次調査区出土遺物 7-26
 5. 第 17 次調査区出土遺物 7-27
 6. 第 17 次調査区出土遺物 7-28
 7. 第 17 次調査区出土遺物 7-29
 8. 第 17 次調査区出土遺物 7-30
- 図版 52
1. 第 17 次調査区出土遺物 7-31
 2. 第 17 次調査区出土遺物 7-32
 3. 第 17 次調査区出土遺物 7-34
 4. 第 17 次調査区出土遺物 7-36
 5. 第 17 次調査区出土遺物 7-37
 6. 第 17 次調査区出土遺物 7-38
 7. 第 17 次調査区出土遺物 7-40
 8. 第 17 次調査区出土遺物 7-42
- 図版 53
1. 第 17 次調査区出土遺物 7-43
 2. 第 17 次調査区出土遺物 7-45
 3. 第 17 次調査区出土遺物 7-46
 4. 第 17 次調査区出土遺物 7-47
 5. 第 17 次調査区出土遺物 7-49
 6. 第 17 次調査区出土遺物 7-51
 7. 第 17 次調査区出土遺物 7-52
 8. 第 17 次調査区出土遺物 7-53
- 図版 54
1. 第 17 次調査区出土遺物 7-54
 2. 第 17 次調査区出土遺物 7-55
 3. 第 17 次調査区出土遺物 7-56
 4. 第 17 次調査区出土遺物 7-57
 5. 第 17 次調査区出土遺物 7-58

6. 第 18 次調査区出土遺物 8-3
 7. 第 18 次調査区出土遺物 8-10
 8. 第 18 次調査区出土遺物 8-12
- 図版 55
1. 第 19 次調査区出土遺物 9-1
 2. 第 19 次調査区出土遺物 9-2
 3. 第 19 次調査区出土遺物 9-3
 4. 第 19 次調査区出土遺物 9-4
 5. 第 19 次調査区出土遺物 9-6
 6. 第 19 次調査区出土遺物 9-7
 7. 第 19 次調査区出土遺物 9-8
 8. 第 19 次調査区出土遺物 9-9
- 図版 56
1. 第 19 次調査区出土遺物 9-10
 2. 第 19 次調査区出土遺物 9-11
 3. 第 19 次調査区出土遺物 9-12
 4. 第 19 次調査区出土遺物 9-13
 5. 第 19 次調査区出土遺物 9-14
 6. 第 19 次調査区出土遺物 9-15
 7. 第 19 次調査区出土遺物 9-17
 8. 第 19 次調査区出土遺物 9-18
- 図版 57
1. 第 19 次調査区出土遺物 9-19
 2. 第 19 次調査区出土遺物 9-20
 3. 第 19 次調査区出土遺物 9-21
 4. 第 19 次調査区出土遺物 9-23
 5. 第 19 次調査区出土遺物 9-25
 6. 第 19 次調査区出土遺物 9-26
 7. 第 20 次調査区出土遺物 10-2
 8. 第 20 次調査区出土遺物 10-4
- 図版 58
1. 第 20 次調査区出土遺物 10-5
 2. 第 20 次調査区出土遺物 10-6
 3. 第 20 次調査区出土遺物 10-9
 4. 第 20 次調査区出土遺物 10-9
 5. 第 20 次調査区出土遺物 10-13
 6. 第 20 次調査区出土遺物 10-14
 7. 第 20 次調査区出土遺物 10-15
 8. 第 20 次調査区出土遺物 10-16
- 図版 59
1. 第 20 次調査区出土遺物 10-18
 2. 第 20 次調査区出土遺物 10-19
 3. 第 20 次調査区出土遺物 10-20
 4. 第 20 次調査区出土遺物 10-22
 5. 第 20 次調査区出土遺物 10-24
 6. 第 20 次調査区出土遺物 10-26
 7. 第 20 次調査区出土遺物 10-29
 8. 第 22 次調査区出土遺物 12-2
- 図版 60
1. 第 22 次調査区出土遺物 12-5
 2. 第 23 次調査区出土遺物 13-1
 3. 第 23 次調査区出土遺物 13-2
 4. 第 23 次調査区出土遺物 13-3
 5. 第 23 次調査区出土遺物 13-4
 6. 第 23 次調査区出土遺物 13-5
 7. 第 23 次調査区出土遺物 13-6
 8. 第 23 次調査区出土遺物 13-7
- 図版 61
1. 第 23 次調査区出土遺物 13-8
 2. 第 23 次調査区出土遺物 13-9
 3. 第 23 次調査区出土遺物 13-10
 4. 第 23 次調査区出土遺物 13-13
 5. 第 23 次調査区出土遺物 13-14
 6. 第 23 次調査区出土遺物 13-16
 7. 第 23 次調査区出土遺物 13-17
 8. 第 23 次調査区出土遺物 13-18
- 図版 62
1. 第 23 次調査区出土遺物 13-22
 2. 第 24 次調査区出土遺物 14-1
 3. 第 24 次調査区出土遺物 14-2
 4. 第 24 次調査区出土遺物 14-3
 5. 第 24 次調査区出土遺物 14-4
 6. 第 24 次調査区出土遺物 14-5
 7. 第 24 次調査区出土遺物 14-6
 8. 第 24 次調査区出土遺物 14-7
- 図版 63
1. 第 24 次調査区出土遺物 14-8
 2. 第 24 次調査区出土遺物 14-10
 3. 第 24 次調査区出土遺物 14-11
 4. 第 24 次調査区出土遺物 14-12
 5. 第 24 次調査区出土遺物 14-13
 6. 第 24 次調査区出土遺物 14-14
 7. 第 24 次調査区出土遺物 14-15

8. 第 24 次調査区出土遺物 14-16
- 図版 64
1. 第 24 次調査区出土遺物 14-17
 2. 第 24 次調査区出土遺物 14-18
 3. 第 24 次調査区出土遺物 14-19
 4. 第 24 次調査区出土遺物 14-20
 5. 第 24 次調査区出土遺物 14-21
 6. 第 24 次調査区出土遺物 14-22
 7. 第 24 次調査区出土遺物 14-24
 8. 第 24 次調査区出土遺物 14-26
- 図版 65
1. 第 24 次調査区出土遺物 14-27
 2. 第 24 次調査区出土遺物 14-28
 3. 第 24 次調査区出土遺物 14-29
 4. 第 24 次調査区出土遺物 14-30
 5. 第 24 次調査区出土遺物 14-31
 6. 第 24 次調査区出土遺物 14-32
 7. 第 24 次調査区出土遺物 14-33
 8. 第 25 次調査区出土遺物 15-1
- 図版 66
1. 第 25 次調査区出土遺物 15-2
 2. 第 25 次調査区出土遺物 15-3
 3. 第 25 次調査区出土遺物 15-4
 4. 第 26 次調査区出土遺物 16-1
 5. 第 26 次調査区出土遺物 16-2
 6. 第 26 次調査区出土遺物 16-3
 7. 第 27 次調査区出土遺物 17-1
 8. 第 27 次調査区出土遺物 17-2
- 図版 67
1. 第 27 次調査区出土遺物 17-3
 2. 第 27 次調査区出土遺物 17-4
 3. 第 27 次調査区出土遺物 17-5
 4. 第 27 次調査区出土遺物 17-6
 5. 第 27 次調査区出土遺物 17-7
 6. 第 27 次調査区出土遺物 17-8
 7. 第 28 次調査区出土遺物 18-1
 8. 第 28 次調査区出土遺物 18-2
- 図版 68
1. 第 28 次調査区出土遺物 18-3
 2. 第 28 次調査区出土遺物 18-4
 3. 第 28 次調査区出土遺物 18-5
 4. 第 28 次調査区出土遺物 18-16
 5. 第 28 次調査区出土遺物 18-7
 6. 第 28 次調査区出土遺物 18-8
 7. 第 29 次調査区出土遺物 19-1
 8. 第 29 次調査区出土遺物 18-2
- 図版 69
1. 第 17 次調査区 SK11 銅鐸形土製品正面
 2. 第 17 次調査区 SK11 銅鐸形土製品背面
 3. 第 17 次調査区 SK11 銅鐸形土製品右側面
 4. 第 17 次調査区 SK11 銅鐸形土製品左側面
 5. 第 17 次調査区 SK11 銅鐸形土製品上部
 6. 第 17 次調査区 SK11 銅鐸形土製品底部

第 1 章 遺跡の位置と環境

1 節 地理的環境

袋井市は静岡県西部に位置し、遠州灘に臨んでいる。南北に長い市域の北東から西側にかけて太田川が通り、中央部では掛川市より流れる原野谷川がその流れを南に向け、太田川と合流し太平洋へ注いでいる。原野谷川の北側には旧東海道の宿場町として発展した袋井地区、南側には JR 東海道本線袋井駅を中心とする高尾地区が位置している。太田川、原野谷川の両岸には沖積地が広がり、袋井市の穀倉地帯となっている。市の南東部には小笠山丘陵があり、小笠沢川や弁財天川、三沢川などの小河川により谷が形成され入り組んだ地形を呈している。

大門遺跡は JR 袋井駅の南側、小笠山西北山麓の標高約 16m を測る段丘の先端に位置する。この段丘をまわるように、北～西側に原野谷川が流れる。JR 東海道本線によって段丘は南北に分断されているが、明治 21 年に開通した東海道鉄道建設のために掘削されたものであり、以前は陸続きであった。現在、JR 東海道本線の北側を掛之上遺跡、南側を大門遺跡として登録しているが、ひとつの大きな集落であったと考えられている。大門遺跡の南側は尾根間の谷で、近年まで水田地帯であった。

2 節 歴史的環境

小笠山丘陵上で縄文時代の集落が 2 箇所確認されている。縄文時代中期の長者平遺跡と、後期の大畑遺跡である。住居跡や土坑墓のほか、貝塚が見つかった。

弥生時代中期から後期にかけて市内の遺跡の数は大幅に増加する。稲作の伝来にともない太田川、原野谷川が造る沖積地に集落を築くようになったと推測される。太田川の自然堤防沿いに鶴松遺跡、徳光遺跡、堀越ジョウヤマ遺跡、土橋遺跡などが並んで確認され、土器や木製品なども良好な保存状態で残されていた。一方、小笠山丘陵上では大門・掛之上遺跡のほか、周囲の丘陵上でも竪穴住居や方形周溝墓群が確認されている。掛之上遺跡は周辺の区画整理事業にともない、これまでに 106 次にもわたる発掘調査が行われ、弥生時代の方形周溝墓群や竪穴住居が発見された。大門遺跡の南側の丘陵上には団子塚遺跡があり、弥生時代中期の墓域や後期の集落が確認され、大門遺跡の墓域とも推測されている。愛野向山Ⅱ遺跡では、丘陵を切り込んで造られた竪穴住居や土壇墓などが確認された。土壇墓より小銅鐸が出土している。

古墳時代の遺跡としては、大門遺跡の範囲内に 6 世紀前半の円墳である大門大塚古墳がある。円礫小口積の横穴式石室で、須恵器や金銅製馬具・刀剣類・トンボ玉が出土した。大門遺跡の南側の丘陵では石室を持つ団子塚古墳群が、大門遺跡の東側では地蔵ヶ谷横穴群・金山横穴群などの横穴墓群が確認されており、古墳時代後期に異なる墓制が取り入れられている点が特徴である。

奈良時代の遺跡では、掛之上遺跡は山名郡衙である可能性が指摘されている。中央部（第 15・16・18 次調査区）から地方官衙の正倉と見られるロ字型に配置された大型掘立柱建物群が、その西側の政庁区とみられる場所から長殿風建物や、それらを区画する幅 4m の溝が検出された。また、大門遺跡においても同時期の 2 棟の総柱建物が確認されており、郡衙にともなう建物と推測されている。しかし、当該時期の出土遺物が少ないことと、文字資料の出土がないことから、具体的な役所名は明確ではない。坂尻遺跡ではこれまでの調査により、柵列に囲まれた掘立柱建物やかまどをともしない竪穴住居が発見され、出土した墨書土器から佐野郡衙の厨家や駅家であると推定されている。



- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 1 大門遺跡 | 20 高尾向山Ⅱ遺跡 | 41 長者平古墳群 | 62 道ヶ谷古墳群 |
| 2 掛之上遺跡 | 21 谷坂古墳群 | 42 宝野金山遺跡 | 62 道ヶ谷古墳群 |
| 3 三門遺跡 | 22 北山遺跡・古墳群 | 43 宝野金山古墳群 | 63 道ヶ谷横穴群 |
| 4 袋井宿遺跡 | 23 団子塚古墳群 | 44 愛野向山Ⅱ遺跡 | 64 川田遺跡 |
| 5 方丈遺跡 | 24 団子塚遺跡 | 45 愛野向山古墳群 | 65 北の谷横穴群 |
| 6 小野田遺跡 | 25 北原遺跡 | 46 愛野向山横穴群 | 66 鶴田Ⅰ遺跡 |
| 7 地藏ヶ谷遺跡 | 26 山畑遺跡・古墳群 | 47 愛野向山古墳群 | 67 鶴松Ⅰ号墳 |
| 地藏ヶ谷横穴群 | 27 諸井大学院遺跡 | 48 貫名氏館跡 | 68 鶴田Ⅱ遺跡 |
| 地藏ヶ谷古墳群 | 28 王子遺跡・古墳群 | 49 国本Ⅱ遺跡 | 69 鶴松遺跡 |
| 8 井守塚古墳群 | 29 諸井十二所遺跡 | 50 国本Ⅰ遺跡 | 70 機ヶ谷古墳群 |
| 9 大門山古墳群 | 30 諸井十二所居館 | 51 不入斗Ⅰ遺跡 | 71 八幡山横穴群 |
| 10 大門Ⅲ遺跡 | 31 楠宮遺跡 | 52 浅間山遺跡 | 72 ブン坂横穴群 |
| 11 丸尾氏館 | 32 貫名地遺跡 | 53 不入斗Ⅱ遺跡 | 73 徳光遺跡 |
| 12 堂下横穴群 | 33 浅羽北原遺跡 | 54 東山遺跡 | 74 堀越ジョウヤマ遺跡 |
| 13 堂下遺跡 | 34 貫名地古墳群 | 55 久野城跡 | 75 海蔵寺古墳群 |
| 14 洪垂神社上古墳群 | 35 五ヶ山古墳群 | 56 蔵王権現神社遺跡 | 76 堀越城跡 |
| 15 金山古墳群 | 36 高尾向山Ⅰ遺跡 | 57 久能東山遺跡 | 77 堀越遺跡 |
| 16 金山遺跡 | 37 平芝陣屋跡 | 58 日吉神社裏横穴群 | 78 小山角田遺跡 |
| 17 関口遺跡 | 38 浅間神社古墳 | 59 東別所横穴群 | 79 土橋遺跡 |
| 18 加賀爪氏館 | 39 雲座古墳群 | 60 東別所古墳群 | |
| 19 柳原遺跡 | 40 雲座東端遺跡 | 61 久能東山古墳群 | |

図 1. 遺跡地図

3 節 大門遺跡の調査履歴

掛之上遺跡や大門遺跡の存在は古くから知られていたようで、昭和 5(1930) 年発行の「静岡県史」には簡単な記述が見られる。昭和 37(1962) 年に始まる東海道新幹線の建設にともない、大門遺跡で本格的な調査が行われた。その後も袋井南公民館（現袋井南コミュニティセンター）周辺の整備関連の発掘調査が複数回にわたって行われたが、いずれも遺跡の東半に集中している。遺跡西半（田端地内）での発掘調査は、袋井駅南都市拠点土地地区画整理事業にともなう平成 30 年度の発掘調査が初となる。

以前は JR 東海道本線近くの累徳寺付近を大門Ⅱ遺跡、袋井市立中央・南公民館付近を大門Ⅰ遺跡と呼称してきたが、同一遺跡である結果を得たことにより平成 18 年に範囲を統合して大門遺跡の名称に改めた。

表 1. 大門遺跡・掛之上遺跡発掘調査一覧

遺跡名	調査名称	調査年度	調査原因	調査主体	調査概略
大門Ⅰ遺跡	第 1 次	昭和 37 年度	東海道新幹線建設	静岡県教委	遺構は検出は無く、弥生時代中期～後期、古墳時代前期、奈良時代の土器が出土した。
	第 2 次	昭和 57 年度	袋井南公民館建設	袋井市教委	弥生時代中期～後期の竪穴状遺構、大型掘立柱建物、方形周溝墓等、古墳時代～奈良時代の大型掘立柱建物、鎌倉時代の掘立柱建物、土廣墓等が検出され、弥生土器、須恵器、中近世の陶磁器が出土した。
	第 3 次	昭和 58 年度	袋井南公民館外構建設	袋井市教委	弥生時代中期～後期の土坑、柱穴が検出され、弥生土器、石器、古墳時代後期末～奈良時代、鎌倉・室町時代の土器・陶器が出土した。
	第 4 次	昭和 62 年度	袋井市消防団消防車庫建設	袋井市教委	弥生時代中期～後期の竪穴住居、土坑、古墳時代前期の掘立柱建物、江戸時代の溝等が検出され、弥生土器、石器、須恵器が出土した。
	第 5 次	平成元年度	袋井市保健センター建設	袋井市教委	弥生時代後期・古墳時代後期の土坑や溝、鎌倉時代の掘立柱建物が検出され、弥生土器片及び須恵器、中近世の陶磁器が出土した。
大門遺跡	第 6 次	平成 18 年度	店舗建設	袋井市教委	古墳時代の竪穴住居及び土坑を検出し、弥生土器が出土。
	第 7 次	平成 19 年度	市道田端掛之上線建設事	袋井市教委	弥生時代の竪穴住居及び土坑・溝を検出し、弥生土器が出土。
	第 8 次	平成 18 年度～21 年度	地方道路整備	(財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所	弥生時代の竪穴住居及び方形周溝墓、土坑、中世の溝を検出し、弥生土器、石器、中世陶磁器が出土。
	第 9 次	平成 19 年度	個人住宅建設	袋井市教委	弥生時代の土坑等を検出し、弥生土器が出土。
	第 10 次	平成 20 年度	市道田端掛之上線建設	袋井市教委	古墳時代の竪穴住居及び土坑を検出し、弥生土器・土師器等が出土。
	第 11 次	平成 21 年度	個人住宅駐車場建設	袋井市教委	弥生時代から奈良時代の土坑等を検出し、弥生土器等が出土。
掛之上遺跡	第 1 次	昭和 49 年度	袋井駅前土地画整理事業	袋井市教委	弥生時代中期～後期の方形周溝墓等、古墳時代の掘立柱建物、狐塚古墳の前方部、鎌倉時代～江戸時代の土廣墓等が検出された。
	第 2 次	昭和 57 年度	個人住宅建設	袋井市教委	弥生時代の方形周溝墓、土廣墓等、江戸時代末期の住宅が検出された。
	第 3 次	昭和 63 年度	駅前第一区画整理事業	袋井市教委	弥生時代の方形周溝墓、奈良時代の大型掘立柱建物が検出された。
	第 4 次	平成 9 年度	原野谷川社会環境基盤重点河川事業	(財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所	弥生時代後期の土坑、古墳時代後期の掘立柱建物等が検出された。
	第 5 次～第 106 次	平成 11 年度～25 年度	駅前第二区画整理事業	袋井市教委	弥生時代中期～後期の方形周溝墓等、古墳時代の豪族居館、奈良時代の郡衙正倉等が検出された。

2章 事業にいたる経緯

大門遺跡の所在する袋井市高尾にはJR袋井駅があり、市の中心地として開発が進められてきた。昭和47～平成9年にかけて北商店街エリアの袋井駅前第一土地区画整理事業が、平成10～27年にかけて袋井駅前第二土地区画整理事業が行われ、袋井駅周辺の姿は大きく変化した。これらの土地区画整理事業の範囲内には掛之上遺跡が所在し、106次に渡って発掘調査が実施された。

今回の発掘調査は、袋井駅南都市拠点土地区画整理事業にともなうものである。JR袋井駅南口周辺の田端地区を主な対象とした区画整理事業で、その対象地の半分以上が周知の埋蔵文化財「大門遺跡」の範囲内である。平成26年8月26～28日に確認調査を実施し、遺跡の範囲と深さの確認を行った。その結果、おおよそ従来登録されていた範囲の地下20～80cmで包含層や遺構を確認することができた。その後の土地区画整理組合との協議の結果、遺跡範囲内の大部分は切土による宅地造成が行われるため、発掘調査が必要とされる個所は計約40,000㎡を超えることが分かった。区画整理事業の進捗と合わせて、平成30年から部分的に発掘調査を開始した。

平成29年10月16日付けで袋井市袋井駅南都市拠点土地区画整理組合より「発掘調査依頼書」が提出されたことから、平成30年5月2日付けで静岡県教育委員会教育長あてに、文化財保護法93条の1において「埋蔵文化財発掘の届出書」を提出する。静岡県教育委員会より6月6日付け教文第433号の2において、発掘調査の指示があった。発掘調査の範囲については、袋井市袋井駅南都市拠点土地区画整理組合と協議の上決定している。平成30年度に第12～14次調査を実施し、令和元年度は2か年目となる。発掘調査と併行して、出土遺物の洗浄・接合・注記などの基礎整理作業や、図面の整理作業、土器実測を実施した。令和2年度より報告書作成作業を開始し、本書は整理作業が終了した第15次調査地区から第29次調査区までの成果を報告する。

表2. 大門遺跡・掛之上遺跡発掘調査一覧

調査区	現地作業	面積 (㎡)
第15次調査	平成31年3月5日～4月21日	259
第16次調査	令和元年5月7日～5月31日	424
第17次調査	令和元年6月3日～8月22日	763
第18次調査	令和元年8月21日～10月11日	989
第19次調査	令和元年10月15日～12月6日	736
第20次調査	令和元年12月9日～令和2年2月7日	739
第21次調査	令和2年2月12日～3月17日	1,231
第22次調査	令和2年4月16日～5月22日	418
第23次調査	令和2年5月21日～8月19日	660
第24次調査	令和2年6月24日～10月21日	680
第25次調査	令和2年8月18日～11月25日	382
第26次調査	令和2年10月5日～11月10日	697
第27次調査	令和2年11月9日～12月21日	664
第28次調査	令和3年1月8日～2月25日	644
第29次調査	令和3年1月29日～3月10日	250



第15次調査～第29次調査区合成写真

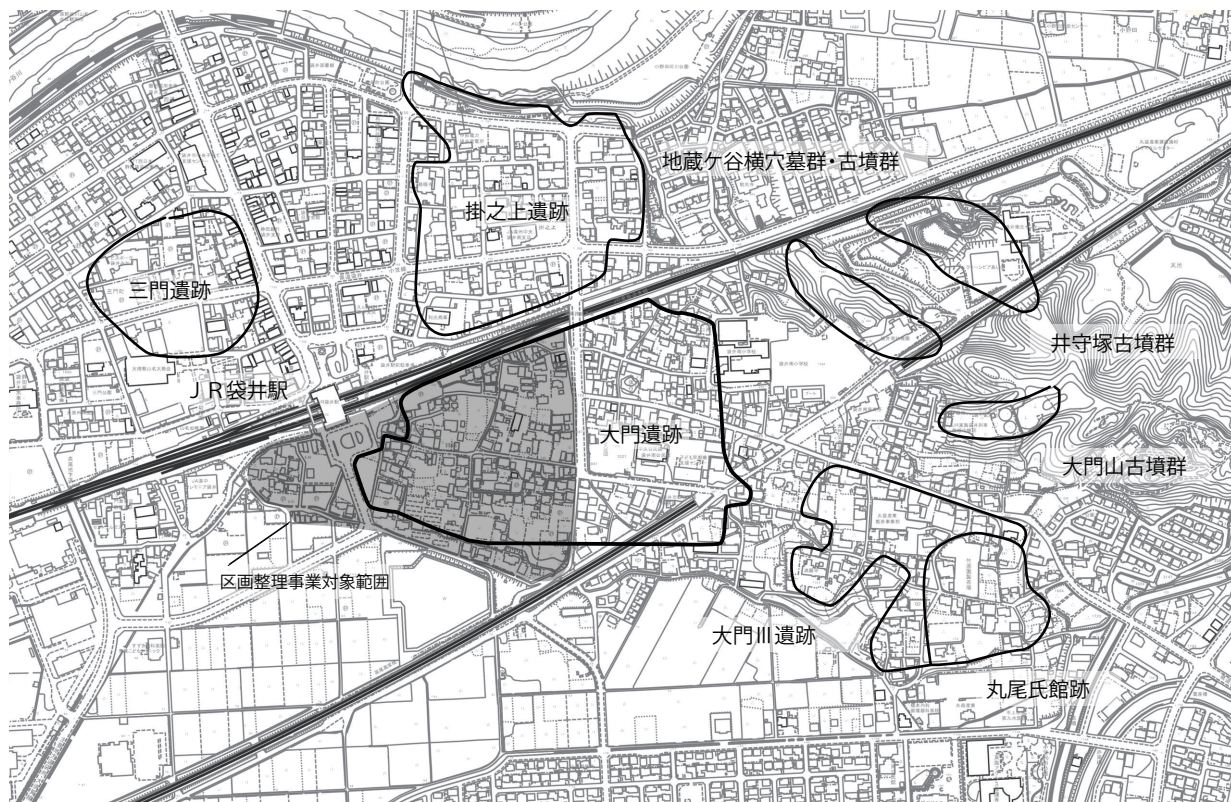


図2. 袋井駅南土地区画整理事業の範囲と大門遺跡

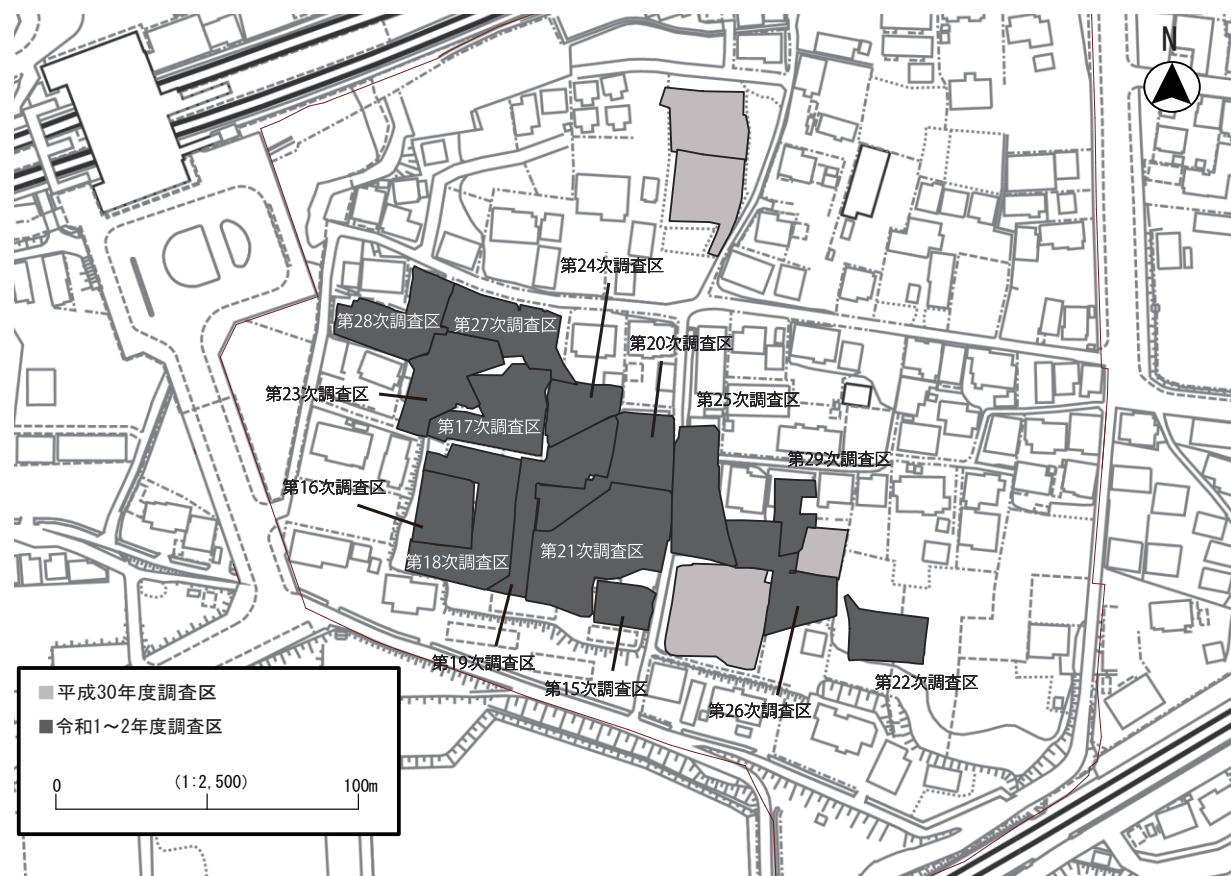


図3. 令和元年度～2年度 調査区位置図

3章 調査の方法と体制

1節 調査の方法

発掘調査対象地は合計約 42,000 m²に相当するため、平成 30 複数年度に分けて調査を実施する。令和元年度はその 2 か年目となる。発掘調査を行う場所は区画整理事業の計画に沿い、土地区画整理組合および袋井市都市計画課と協議して決定した。事前に既存建物の解体・撤去のうえ、発掘調査を開始する。表土はバックホーにて除去した。基準点測量は(株)フジヤマに委託し、光波測距儀によって行った。全体図についても(株)フジヤマに委託し、空中測量から 1/50 及び 1/200 スケールの図面を作成した。個別の遺構図は必要に応じ 1/20 もしくは 1/10 スケールで人力により作図した。空中写真撮影は(株)フジヤマに委託し、ラジコンヘリにモノクロフィルムカメラ、デジタルカメラを搭載し撮影を行った。そのほかの写真は、デジタルカメラ(一眼レフ 620 万画素)を使用した。

2節 調査日誌抄

平成 31 年度・令和元年度			令和 2 年度		
4 月 15 日(月) 第 15 次調査区の空中写真撮影に向けて清掃。	9 月 24 日(火) 堅穴住居跡の壁溝等の掘削。	2 月 7 日(金) 第 20 次調査区 空中写真撮影および測量を実施。個別の遺構の写真撮影。	4 月 16 日(木) 重機掘削開始。今回の調査区を 22 区とする。	4 月 17 日(金) 重機掘削完了。	5 月 11 日(月) 略図作成。各遺構の遺物を取り上げる。
4 月 18 日(木) 第 15 次調査区の空中写真撮影および測量を実施。個別の遺構の写真撮影	9 月 30 日(月) 調査区中央部の意向確認。	2 月 12 日(水) 第 21 次調査区調査を開始。重機掘削を実施。平面精査。	4 月 17 日(金) 重機掘削完了。	4 月 21 日(火) 人力掘削開始。調査区壁の調整、排水溝掘削、周辺の清掃を行った。	5 月 12 日(火) 堅穴式住居③のセクションの写真撮影。
5 月 7・8 日(水・木) 第 16 次調査区調査を開始。重機掘削を実施。	10 月 2 日(水) 調査区中央部完掘。	2 月 14 日(金) 重機掘削及び平面精査。	4 月 21 日(火) 人力掘削開始。調査区壁の調整、排水溝掘削、周辺の清掃を行った。	4 月 22 日(水) 遺構確認を行った。1 辺 2m 以上の方形の遺構が複数あり。建物の跡か。	5 月 13 日(水) 溝掘削開始。溝の底面に堅穴式住居⑤の壁溝が残っていると推定。
5 月 9 日(木) 第 16 次調査区の平面精査。	10 月 3 日(木) 出土遺物取り上げ作業開始。	2 月 27 日(金) 個別遺構の掘削。	4 月 22 日(水) 遺構確認を行った。1 辺 2m 以上の方形の遺構が複数あり。建物の跡か。	4 月 23 日(木) 北西部から遺構掘削を開始。	5 月 14 日(木) 溝、堅穴式住居のセクションを削平した。
5 月 10 日(金) 個別の遺構の掘削を開始。	10 月 7 日(月) 第 18 次調査区 空中写真撮影に向けて清掃。	3 月 9 日(月) 遺跡南限確認のための試掘調査実施。	4 月 24 日(金) 溝から弥生土器が集中して出土土器を残して、周囲の掘削を進める	4 月 24 日(金) 溝から弥生土器が集中して出土土器を残して、周囲の掘削を進める	5 月 15 日(金) 遺構の掘削がほぼ完了した。
5 月 17 日(金) 土器出土状況の撮影。	10 月 11 日(金) 第 18 次調査区 空中写真撮影および測量を実施。個別の遺構の写真撮影。	3 月 17 日(火) 第 21 次調査区 空中写真撮影および測量を実施。個別の遺構の写真撮影。	4 月 27 日(月) 南西部の住居③に、十字にセクションベルトを設定し、掘削を始める。	4 月 27 日(月) 南西部の住居③に、十字にセクションベルトを設定し、掘削を始める。	5 月 19 日(火) 空撮に向けての清掃を開始。シート板、土嚢をすべて片付け、水抜きをした。
5 月 24 日(金) 土器出土状況の撮影後、取り上げ。	10 月 15 日(火) 第 19 次調査区調査を開始。重機掘削を実施。平面精査。		4 月 28 日(火) 遺構掘削。	4 月 28 日(火) 遺構掘削。	5 月 20 日(水) 調査区の西側から清掃を始める。
5 月 27 日(月) 空撮に向けて遺構の清掃を開始。	10 月 21 日(火) 平面精査。個別遺構の掘削。		4 月 30 日(木) 遺構掘削。西側約 1/3 が完掘。	4 月 30 日(木) 遺構掘削。西側約 1/3 が完掘。	5 月 21 日(木) 第 22 次調査区の清掃および白線引きがほぼ完了。第 23 区の重機掘削を開始。
5 月 31 日(金) 第 16 次調査区の空中写真撮影および測量を実施。	10 月 24 日(木) 重機掘削を実施。平面精査。		5 月 7 日(木) ピット出土状況の図面作成。	5 月 7 日(木) ピット出土状況の図面作成。	5 月 22 日(金) 第 22 次調査区調査を開始。重機掘削を実施。
6 月 3 日(月) 第 17 次調査を開始。重機掘削を実施。	10 月 28 日(月) 個別遺構の掘削。		5 月 8 日(金) ピット内の嶺田壺、堅穴式住居③出土の台付甕脚部を取り上げる。	5 月 8 日(金) ピット内の嶺田壺、堅穴式住居③出土の台付甕脚部を取り上げる。	午後から遺構個別の撮影を行い、第 22 次調査区の作業は終了。
6 月 5 日(水) 重機掘削の完了。	11 月 1 日(金) 調査区南側完掘、北側の個別遺構掘削。		5 月 11 日(月) 略図作成。各遺構の遺物を取り上げる。	5 月 11 日(月) 略図作成。各遺構の遺物を取り上げる。	
6 月 10 日(月) 平面精査。	11 月 5 日(火) 調査区北側の個別遺構掘削。		5 月 12 日(火) 堅穴式住居③のセクションの写真撮影。	5 月 12 日(火) 堅穴式住居③のセクションの写真撮影。	
6 月 13 日(木) 個別の遺構の掘削を開始。	11 月 12 日(火) 調査区北側の個別遺構の掘削。石斧出土。		5 月 13 日(水) 溝掘削開始。溝の底面に堅穴式住居⑤の壁溝が残っていると推定。	5 月 13 日(水) 溝掘削開始。溝の底面に堅穴式住居⑤の壁溝が残っていると推定。	
6 月 17 日(月) SZ1 と SZ3 にまたがる畔を残し掘削を開始。	11 月 12 日(金) 調査区北側の個別遺構の掘削。		5 月 14 日(木) 溝、堅穴式住居のセクションを削平した。	5 月 14 日(木) 溝、堅穴式住居のセクションを削平した。	
6 月 19 日(水) SK1 と SZ1 に畔を残し掘削を開始。弥生土器片を大量に含む。	11 月 18 日(月) 調査区北側の個別遺構の掘削。ミニチュア土器出土。		5 月 15 日(金) 遺構の掘削がほぼ完了した。	5 月 15 日(金) 遺構の掘削がほぼ完了した。	
6 月 26 日(水) SZ1 土層断面図作成。	11 月 19 日(火) 調査区北側の個別遺構の掘削。磨製石斧出土。		5 月 19 日(火) 空撮に向けての清掃を開始。シート板、土嚢をすべて片付け、水抜きをした。	5 月 19 日(火) 空撮に向けての清掃を開始。シート板、土嚢をすべて片付け、水抜きをした。	
7 月 16 日(火) SZ1 の土器出土状況の写真撮影。	11 月 21 日(木) 調査区北側の個別遺構の掘削。磨製石斧出土状況の写真撮影。		5 月 20 日(水) 調査区の西側から清掃を始める。	5 月 20 日(水) 調査区の西側から清掃を始める。	
7 月 18 日(木) SZ1 北溝土器出土状況の写真撮影。	11 月 29 日(金) 調査区北側の個別遺構の掘削。		5 月 21 日(木) 第 22 次調査区の清掃および白線引きがほぼ完了。第 23 区の重機掘削を開始。	5 月 21 日(木) 第 22 次調査区の清掃および白線引きがほぼ完了。第 23 区の重機掘削を開始。	
7 月 25 日(木) SZ2 北溝中央に畔を残し掘削を進める。	12 月 3 日(火) 第 19 次調査区 空中写真撮影に向けて清掃。		5 月 22 日(金) 第 22 次調査区調査を開始。重機掘削を実施。	5 月 22 日(金) 第 22 次調査区調査を開始。重機掘削を実施。	
7 月 31 日(水) 南地区まちづくり協議会と協同で発掘体験を実施。	12 月 6 日(金) 第 19 次調査区 空中写真撮影および測量を実施。個別の遺構の写真撮影。				
8 月 5 日(月) SZ2 西溝地山面直上でほぼ完形の長頸壺を確認。	12 月 9 日(月) 第 20 次調査区調査を開始。重機掘削を実施。				
8 月 6 日(火) SK1 清掃し、土器出土状況の写真撮影。	12 月 11 日(水) 平面精査。個別遺構の掘削。				
8 月 9 日(金) SK1 の取り上げ、過程で銅鐸形土製品が出土。	12 月 12 日(木) 調査区中央部に掘立柱建物を検出。個別遺構の掘削。				
8 月 19 日(月) 空中写真撮影に向けて清掃を開始。	12 月 19 日(木) 個別遺構の掘削。				
8 月 21 日(水) 第 18 次調査区の重機掘削を開始。	1 月 9 日(木) 本年仕事始め。個別遺構の掘削。				
8 月 22 日(木) 第 17 次調査区の空中写真撮影および測量を実施。測量後、個別の撮影。	1 月 10 日(金) 土器取り上げ作業。個別遺構の掘削。				
8 月 23 日(金) SZ3 土器取り上げ。17 次調査が完了。	1 月 13 日(月) 第 20 次調査区拡張部分を重機掘削。				
8 月 26 日(月) 第 18 次調査区での掘削を開始。平面精査、個別遺構の掘削。	1 月 14 日(火) 拡張部分の平面精査。調査区内の個別遺構の掘削。				
9 月 3 日(火) 個別遺構の掘削。	1 月 14 日(火) 個別遺構の掘削。				
9 月 5 日(木) 個別遺構の掘削。	1 月 20 日(月) 近世墓の掘削。個別遺構の掘削。				
9 月 9 日(月) 台風による水没の復旧、遺構掘削。	2 月 3 日(月) 第 20 次調査区 空中写真撮影に向けて清掃。				
9 月 13 日(火) 個別遺構の掘削。					

『大門遺跡－袋井駅南土地地区画整理事業に伴う第15～29次発掘調査報告書－』

5月25日(月) 第23次調査区的人力掘削を開始。調査区壁の調整と、排水溝掘削実施。	掘削を開始する。	第29次調査区の重機掘削を開始。
5月26日(火) 遺構確認を行う。	第24次調査区の清掃と白線引き。16区の重機掘削が完了する。	2月1日(月) 第28次調査区の南半を残し遺構掘削を終了。第29次調査区の遺構掘削を開始。
5月27日(水) 北東部から遺構掘削を開始。	10月7日(水) 第24次調査区の空撮と、個別の写真撮影を行う。併行して、第26次調査区の排水溝作りを行う。	2月3日(水) 第28区全体の雨水排水を実施し、略図作成。
5月28日(木) 重機掘削の時に確認できていた壺の周囲を優先的に掘削する。	10月12日(月) 第26次調査区の排水溝作りを終え、遺構確認のために表面を削る。	2月4日(木) 第28次調査区の西端で確認された溝等の掘削。土器だまり4か所を検出する。
6月2日(火) 6月より休憩時間を夏仕様に変更。	10月13日(火) 第26次調査区の遺構の掘削を開始する。	2月5日(金) 第29次調査区は北側より遺構掘削開始。溝で古墳時代の壺片を確認。
6月3日(水) 第23次調査区で石の斧が出土。	10月14日(水) 第24次調査区の土器だまり及び第25次調査区の焼土部分の出土状況を作成。	2月8(月)～12日(金) 第28次調査区の土器だまり及び第29次調査区の遺構掘削の実施。
6月4日(木) 調査区北西部にある炉の跡掘削。	10月15日(木) 第26次調査区南側の遺構掘削がほぼ終了する。南西隅で弥生土器出土。	2月16(火)～19日(金) 第28次調査区の清掃実施。
6月8日(月) 調査区北側は、一部を除いてほぼ掘り終える。南側の掘削に取り掛かる。	10月16日(金) 第26次調査区北側の掘削を開始。弥生土器や土師器が出土する。	2月22日(月) 第28次調査区の清掃実施。
6月9日(火) 土器集中の土坑について写真撮影を行う。	10月20日(火) 第24次調査区の土器の取り上げ。	2月24日(水) 第28次調査区の空撮および個別の写真撮影を実施。空撮後、第29次調査区の遺構掘削を実施。
6月15日(月) 水抜きと共に、シートや保護板を全て外し、遺構の配置が分かる略図を作成する。	10月21日(水) 第25次調査区焼土部分に、土層観察のためサブトレンチを掘削。	2月25日(木) 第28次調査区の土器だまりの、土器の取り上げを実施。
6月16日(火) 調査区南西にある溝状の遺構から石鏝が出土した。	10月22日(木) 土器が出土している部分を除いて、第26次調査区の掘削が終わる。	3月2日(火) 第29次調査区の清掃を実施。
6月17日(水) 土坑の実測図を作成。	10月23日(金) 空撮との調整とによりしばらく休止。	3月3日(水) 第29次調査区の清掃を実施。
6月24日(水) 第23次調査区の遺構の掘削がほぼ完了。並行して、第24次調査区を重機で掘削。	11月5日(木) 第26調査区の清掃開始。	3月4日(木) 午前中の清掃後、午後から空撮・個別の写真撮影を実施。
6月25日(木) 第24次調査区分の土嚢を作成後、シートを敷き詰め、雨の対策を行う。	11月9日(月) 雨水の排水及び清掃を行う。	3月5日(金) 溝内の土器を取り上げ実施後、第29次調査区の作業終了。
7月15日(水) 第23次調査区の排水作業実施。午後から掘削作業を始める。	11月10日(火) 第26次調査区の空撮。併行して第27次調査区の重機掘削を行う。	3月10日(水) 各調査区に置いていた資材を現場事務所へ移動。資材や事務所の片付けを行い、今年度の作業は終了。
7月16日(木) 第23次調査区で遺構掘削が終わりに近づき、第24次調査区と並行して遺構掘削を行う。第24次調査区では調査区の周囲に排水溝を掘削した。	11月11日(水) 第27次調査区の調査区壁の調整や、排水溝作りを行う。	
7月20日(月) 第23次調査区南東隅の土坑から弥生土器(壺)が完形で出土。	11月12日(木) 表面を削り、遺構確認をした。	
7月21日(火) 第23次調査区の掘削が完了し、第24次調査区では竪穴式住居5軒を次検出。	11月13日(金) 東側から遺構掘削を始める。東側は近世の溝や攪乱を多数確認する。	
7月22日(水) 第24次調査区を北側から遺構の掘削。	11月16日(月) 第27次調査区の遺構掘削。	
7月29日(水) 第24次調査区の水抜き後、掘削作業を再開。竪穴式住居内の掘り下げながら、住居の範囲や重なりを確認。	11月17日(火) 第25次調査区の焼土跡を清掃。サブトレンチの写真撮影を行う。	
8月3日(月) 空撮に向け、第23次調査区の清掃を開始。	11月19日(水) 焼土サブトレンチの土層断面図を作成。建物痕が埋まった後、火を焚いていることが判明。	
8月4・5日(火・水) 第23次調査区の空撮に向けて清掃。	11月24日(火) 第27次調査区東側の掘削終了。西側へ移行。比較的大きい土坑や溝が複数確認。	
8月6日(木) 第23次調査区の空撮を行う。午後から個別の写真撮影	11月25日(水) 焼土部分を解体し、解体後の写真撮影をした。これで第25次調査区の作業終了。	
8月7日(金) 第23次区の土器の取り上げ。第24次区での遺構掘削作業を再開。	12月1日(火) 第27次調査区の南西側にある遺構掘削。	
8月17日(月) 第25次調査区の植木等の撤去。	12月2日(水) 第27次調査区の西側にある住居跡付近を、焼土を残して掘り下げを実施。	
8月18・19日(火・水) 第23次調査区の発掘調査を終了。第25次調査区の重機掘削を開始。	12月3日(木) 第27次調査区の西側にある住居跡付近、溝を中心に掘削。	
8月20日(木) 第24次調査区の竪穴式住居の北端で土器だまりを確認。第25次調査区の重機掘削が完了。	12月4日(金) 第27次調査区の西側にある住居跡付近、溝を中心に掘削。	
8月21日(金) 第24次調査区を一時中断し、第25次調査区の作業に取り掛かる。調査区壁の調整と排水溝の掘削。	12月14(月)～16日(水) 空撮に向けて清掃、白線引き。	
8月24・25日(月・火) 第25次調査区の遺構確認を行う。	12月17日(木) 空撮、測量の実施。午後より遺構の写真撮影などを実施。	
8月26～28日(水～金) 各遺構を掘り下げる。焼土の周りに残った包含層を削ると、周囲で焼土や炭を確認。	12月18日(金) 個別の写真撮影や、土器の取り上げを実施。	
9月1日(火) 第25次調査区の遺構掘削。	1月8日(金) 第28次調査区の重機掘削を開始。資材や道具などの準備を行う。	
9月2日(水) 焼土で作られた壁状の内側にビットを確認。ビット内壁の被熱を確認。	1月13日(水) 重機掘削完了。調査区壁の形を整えて、排水溝の掘削を行う。	
9月9日(水) ～18日(金) 遺構掘削。	1月14日(木) 表面を削り、遺構確認をした後、北側から掘り始める。	
9月28日(月) 第25次調査区空撮に向けて清掃と準備。	1月15日(金) 遺構掘削。北側は攪乱や、新しい時代の溝がある。	
9月29日(火) 第24調査区のシート、土のうの移動。水抜き。第25調査区の清掃を開始。	1月19日(火) 北側の掘削がほぼ終わったため、西端にうつってもらう。	
9月30日(水) 第24・25次調査区の清掃を行う。焼土が鍛冶・鋳造遺構の可能性を考え、金属探知機で周囲を調査	1月20日(水) 南北に通る溝、東西方向の落ち込みを掘り出す。溝の中からは、北・南の端で弥生時代の土器だまりを確認。	
10月1日(木) 第25調査区の清掃、白線引き。	1月21日(木) 自然の谷地形による落ち込み確認。	
10月2日(金) 第25次調査区空撮。遺構個別の写真撮影。	1月26日(火) 調査西側も埋没谷状の地形を確認。	
10月5日(月) 第24区の清掃。第26次調査区の重機	1月29日(金) 第28次調査区の遺構掘削をいくつか、	

第4章 発掘調査の成果

1節 発掘調査範囲について

令和元年度は7箇所、2年度は8箇所に分けて発掘調査を実施し、順番に第15次調査区～第29次調査区の名称をつけた。それぞれの面積や調査時期については、2章をご覧ください。以下では調査区ごとに詳述する。なお、遺物の出土した遺構の番号は表3「遺物対比表」にまとめて記載している。

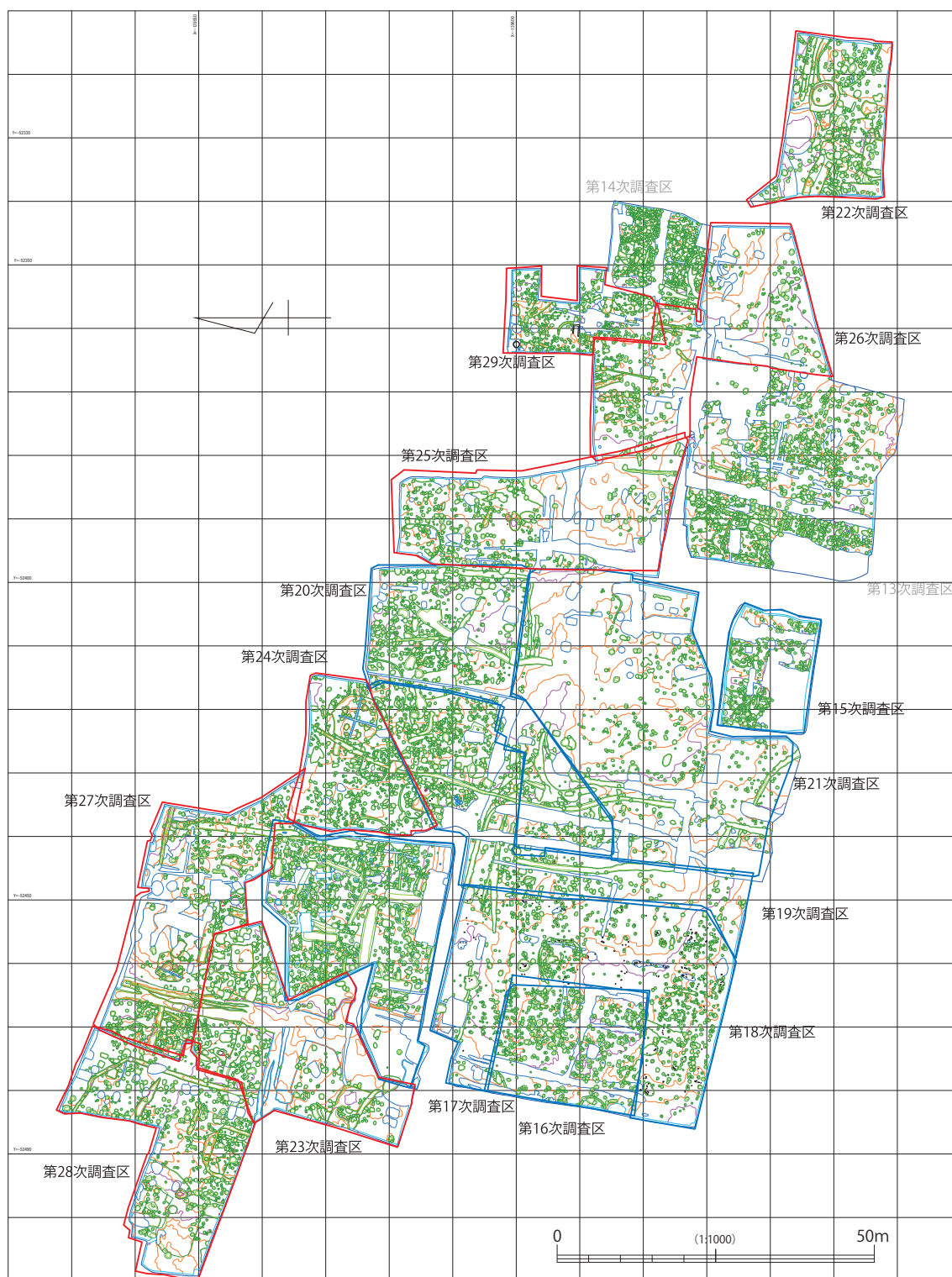


図4. 第15～29次調査区全体図（1:1000）

2節 第15次調査区

大門遺跡の南端部に位置し、調査時期は、平成31年度3～4月、面積は259㎡である。道路を挟んで東側に13次調査区、北・西側に21次調査区が隣接する。15次調査区は大門遺跡の所在する尾根の端でもあり、南側は3m以上落ち込み、現在は調整池となっている。

基本層序は概ね以下のとおりである。

- I層 黄褐色土 表土
- II層 褐色土 遺物包含層
- III層 明黄褐色土 地山 遺構確認面

III層にて遺構を確認するまでに、表土を0.3～0.7m除去した。遺構確認面の標高は13.8～14.1mで、北東から南西方向にかけてゆるやかに傾斜をする。

調査前はこの付近に温室が9棟立ち並び、メロン栽培が行われていた。調査区の南側は攪乱を受け、遺構はほとんど残存していない。弥生時代の竪穴住居2軒、掘立柱建物2棟のほか、土坑やピットを検出した。

2-1. 弥生時代の遺構・遺物

S B16 (図5)

北側一部が調査区外となるが、平面形は南北に長い楕円形と推測する。検出されたうち東側の3分の1程度はSB17と重複する。長軸6.35m、短軸残存3.8mを測る。壁溝と柱穴のみで、掘り方や貼床、炉跡は確認できなかった。壁溝の幅は0.18mである。四本柱が四角形に配置されていたと推測する。柱穴からは弥生土器の小片が出土しているが、図示できるものはない。

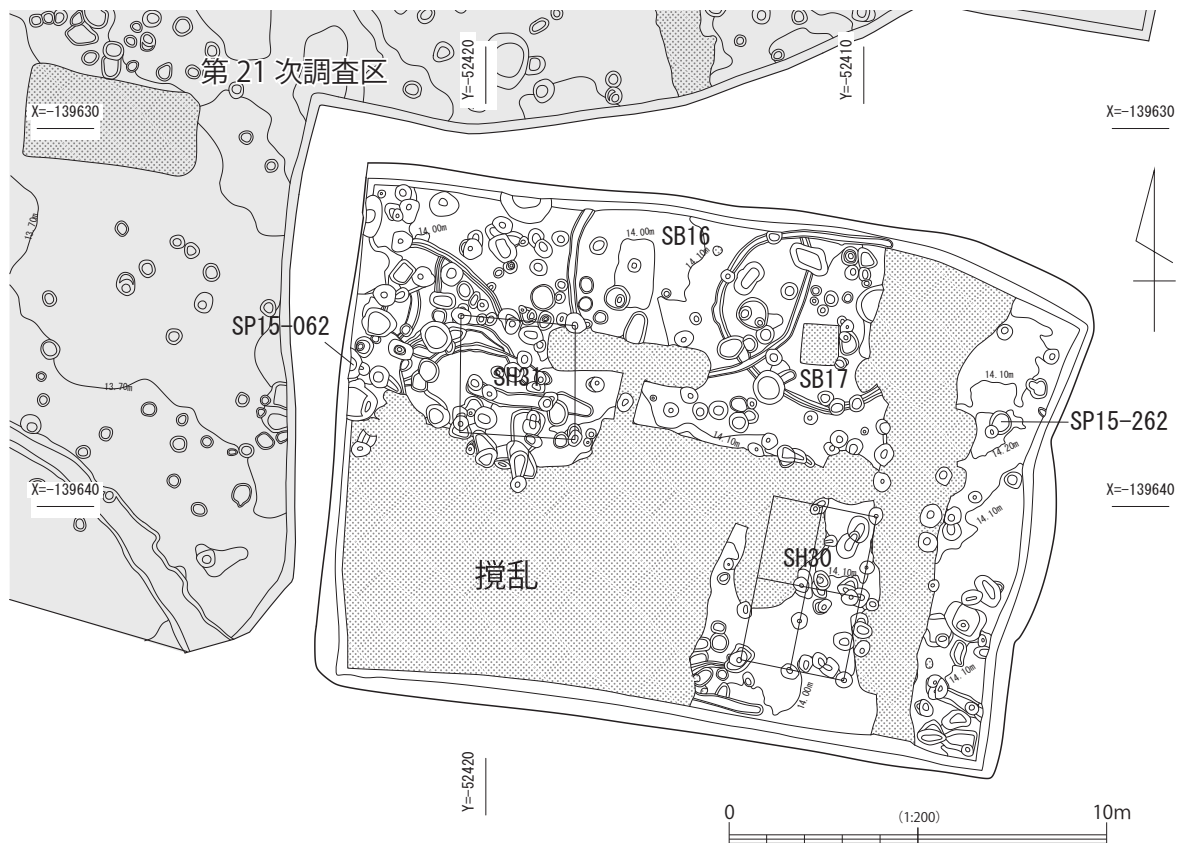


図5. 第15次調査区全体図 (1:200)

S B17 (図6)

平面形は東西に長い長楕円形で、住居の東端は近世の溝に切られており残存していない。長軸残存 4.65 m、短軸 4.86 m を測る。壁溝と柱穴のみで、掘り方や貼床、炉跡は確認できなかった。壁溝の幅は 0.24 m である。四本柱が四角形に配置されていたと推測する。柱穴から菊川式土器の口縁部とみられる破片のほか、細片が多く時期の特定は難しく、図示できるものはない。

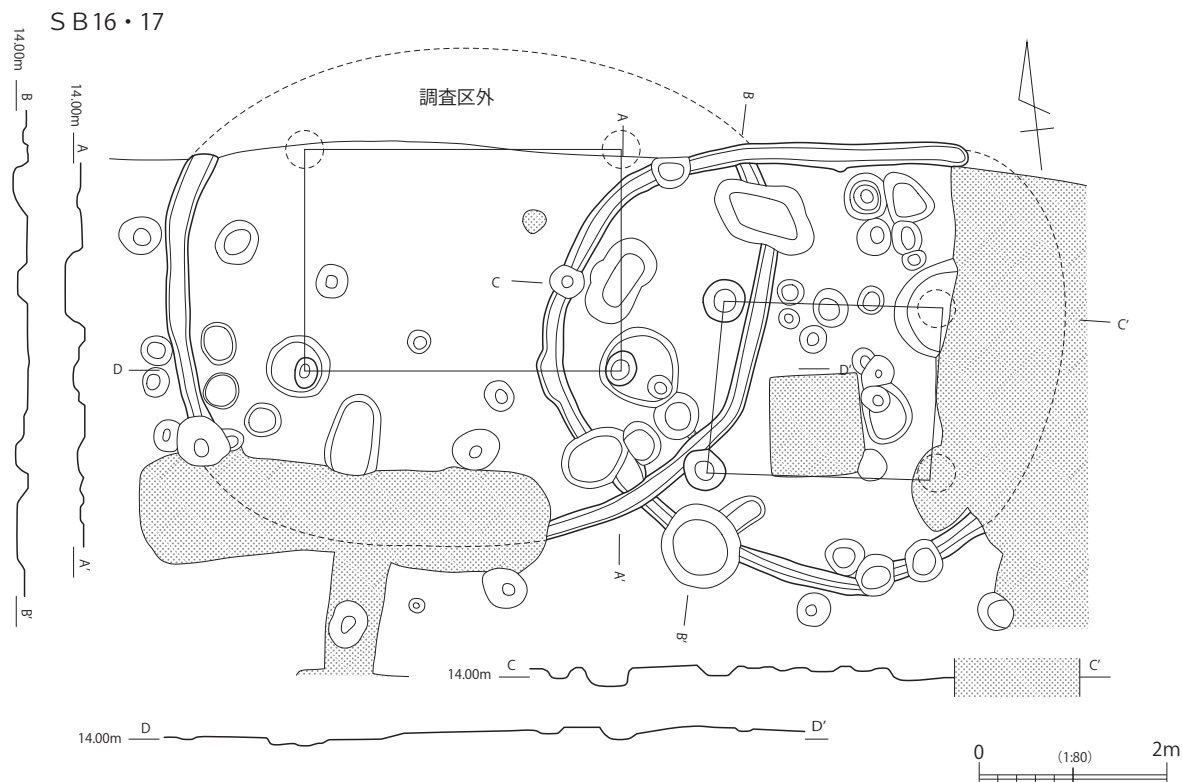


図6. 第15次調査区 S B 16・17

2-2. 古墳時代の遺構・遺物

S H30 (図7)

梁間2間、桁行2間の建物で、一部攪乱を受け残存していないが総柱建物と推測する。遺構主軸はN-11°-Eである。遺構規模は梁行3.3m、桁行4.8mを測る。柱間1.0～1.82m、柱穴径0.4～0.8m、深さ0.2～0.29mである。柱穴から須恵器片1点のほか、土師器の細片複数が出土しているが、図示できるものはない。

S H31 (図7)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-5.5°-Eである。遺構規模は梁行3.52m、桁行3.52mを測る。柱間2.48～2.56m、柱穴径0.42～0.52m、深さ0.21～0.42mである。柱穴からは須恵器高坏脚部ほか、須恵器や土師器の細片が確認できた。細片が多く、図示できるものはない。

2-3. 奈良時代以降の遺構・遺物

S P15-062 (図5・7)

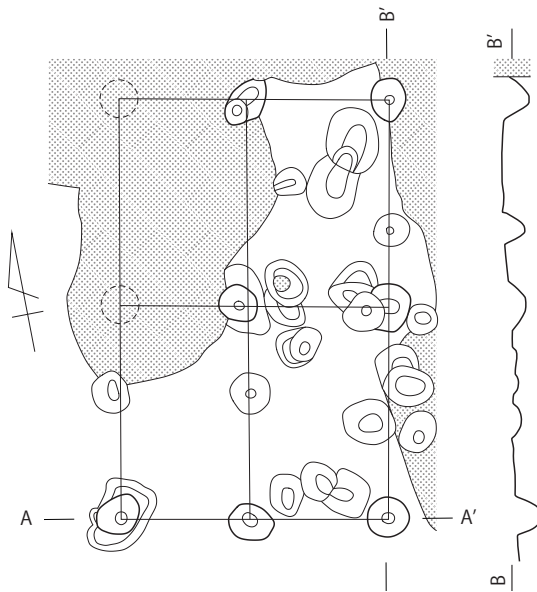
長径1.06m、短径0.8m、深さ約0.2mのピット。西端は調査区外へ伸びており、もう一回り大きいと推測できる。暗褐色の覆土より高台付きの須恵器坏身片が出土した。底径10.7cm、残存高2.1cmで、内外面に炭粒が付着している。時期は8世紀前半と考えられる。ほかにも、

かわらけの破片と推測されるものが出土しているが、図示できるものはない。

S P15-262 (図5・7)

調査区の西側で確認された遺構で、南北長0.80m、東西確認長0.30m、深さ0.23mを測る墓墳である。平面形は楕円形となると見られ、西側が調査区外に及んでいるため正確な形状は不明である。覆土中から冥銭と見られる中国渡来銭（皇宋通宝・嘉祐通宝・紹興通宝・嘉熙通宝・2枚は判読不明）6枚が出土している江戸時代以前の土壌と考えられる。人骨の痕跡は残されておらず、火葬後の埋葬墓と考えられるが詳細は不明であり、直上に墓石のようなものは残されていない。

S H30



S H31

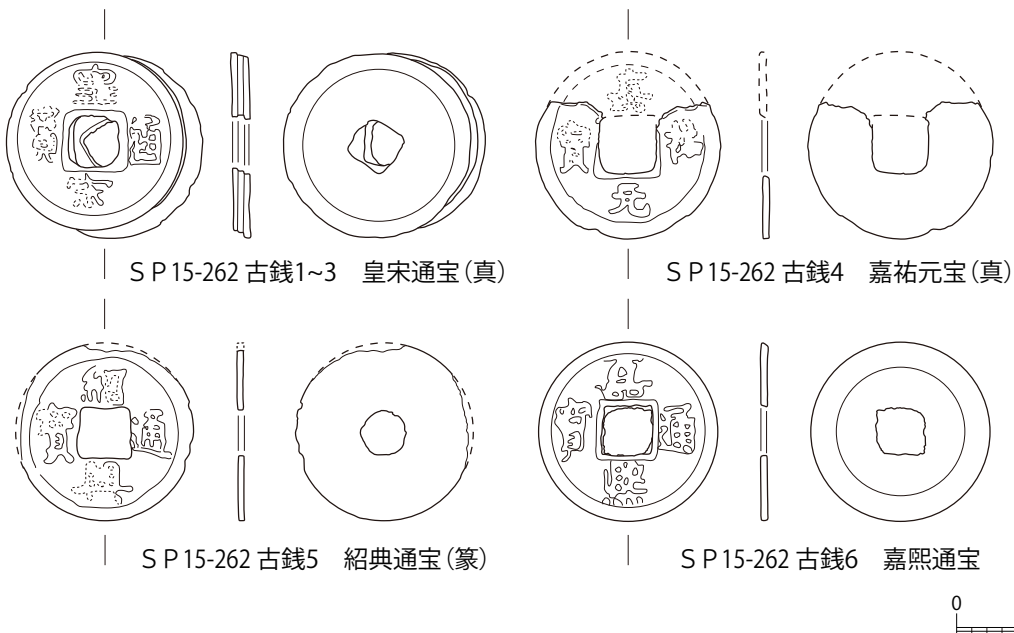
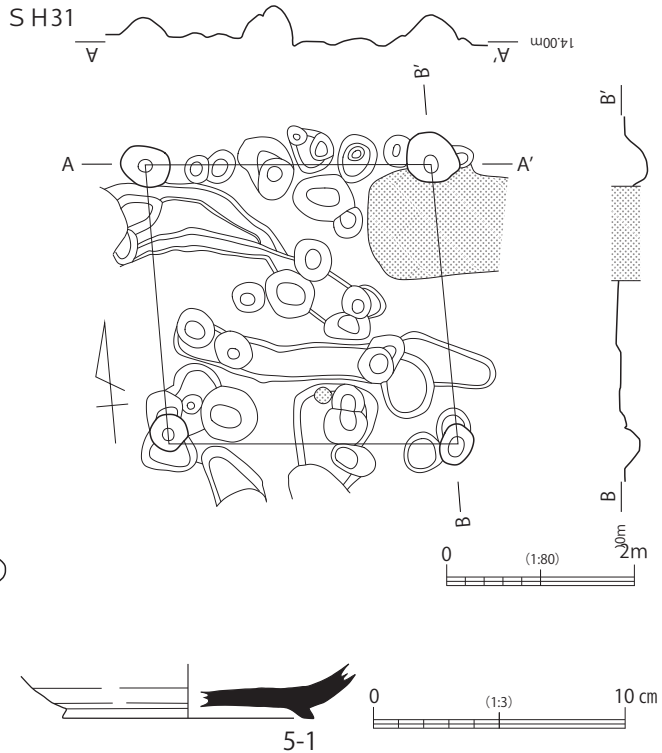


図7. 第15次調査区S H 30・31 遺物実測図

3節 第16次調査区

遺跡の南端部に南西部に位置する調査区で、調査時期は令和元年5月、面積は424 m²である。16次調査区の周囲をコの字状に18次調査区が囲む。

西側の敷地は既に切土造成が行われ、2 m以上の高低差がある。近隣住民の話によると、JR袋井駅周辺（現天理教大教会付近）の開発時に西側敷地の土を削って運んだそうである。丘陵そのものとしてはもう数十m西側に伸びており、遺跡の本来の範囲は西へ続いた可能性がある。

基本層序は概ね以下の通りである。

- I層 黄褐色土 表土
- II層 黒褐色土 遺物包含層
- III層 明黄褐色土 地山 遺構確認面

III層にて遺構を確認するまでに、表土を0.4～0.45 m除去した。遺構確認面の標高は13.2～13.8 mで、北東から南西方向にかけてゆるやかに傾斜をする。弥生時代の竪穴住居1棟、古墳時代以降の掘立柱建物2棟のほか土坑やピットを検出した。調査区を十字に区切るように近代以降の攪乱がある。また、ピットより弥生土器の細片が出土したが、細片が多く実測できるものはない。



図8. 第16次調査区全体図 (1:200)

3-1. 弥生時代の遺構・遺物

S B18 (図9)

調査区西南側で確認された遺構で、その3分の2が調査区外に延び全容は明らかとなっていないが平面形は円形と推定される。推定直径は4.2 m、壁溝のみの検出で、掘り方や貼床は確認されていない。柱穴全ても調査区外となる。

3-2. 古墳時代の遺構・遺物

S K9 (図10)

5分の1程度が第18次調査区におよんでいる。平面形は南北に長い隅丸長方形で、長軸2.4 m、短軸1.4 mを測る。土師器片の出土がある。

S K10 (図10)

平面形は南北に長い隅丸長方形であったと見られるが、他の遺構との重複が激しい、推定長軸2.5 m、短軸1.0 mを測る。土師器杯の出土がある。

3-3. 奈良時代以降の遺構・遺物

S H32 (図10)

梁間1間、桁行3間の建物で、遺構主軸はN-13°-Eである。遺構規模は梁行3.3 m、桁行4.8 mを測り、SH1とL字形に隣接する位置にある。柱間0.73～0.96 m、柱穴径0.4～0.64 m、深さ0.21～0.36 mである。出土遺物はピットから須恵器・土師器が出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。

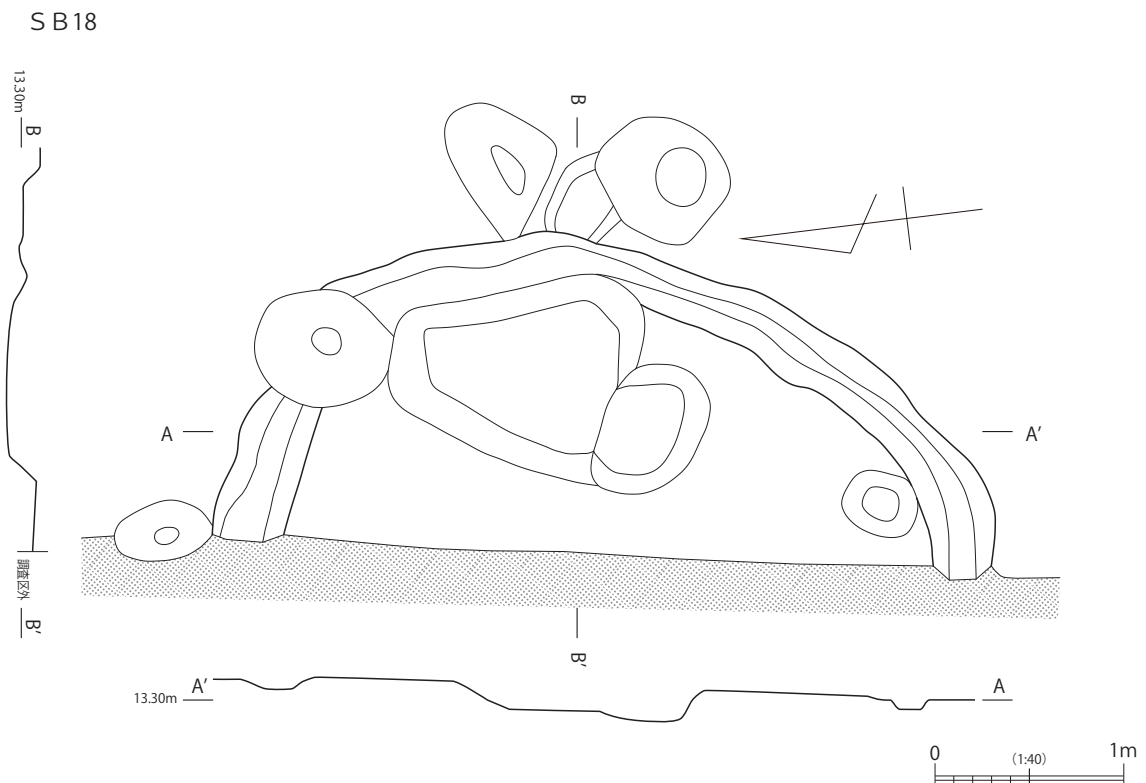


図9. 第16次調査区 S B18

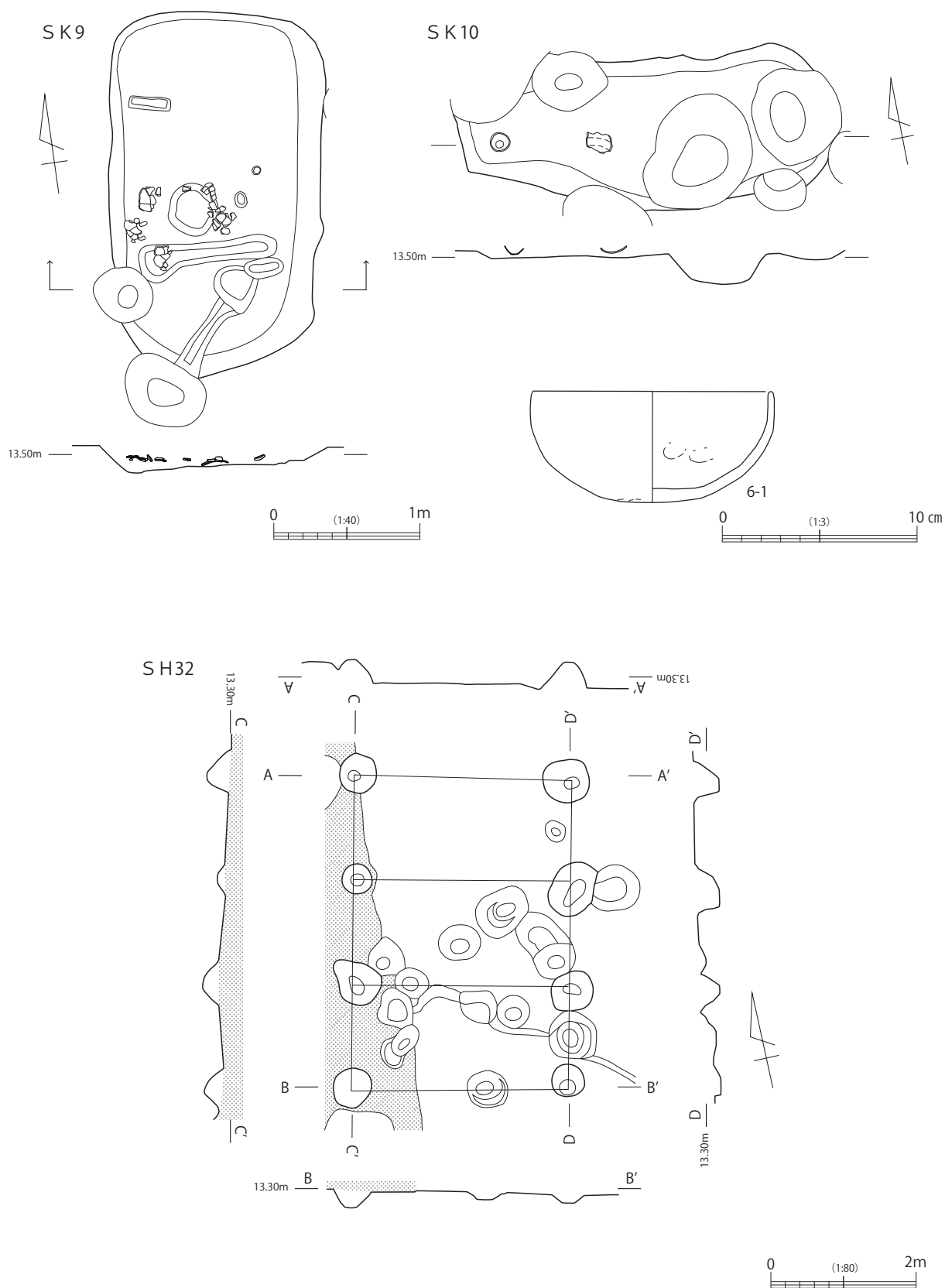


図10. 第16次調査区 SK9・10 SH32

SH33 (図11)

梁間1間、桁行5間の建物で、遺構主軸はN-17°-Eである。遺構規模は梁行4m、桁行10mを測り、他の掘立柱建物と比較しても特別に大きい。柱間1.25～1.55m、柱穴径0.46～0.82m、深さ0.21～0.44mである。柱穴からは7世紀と推測される須恵器片や土師器が出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。

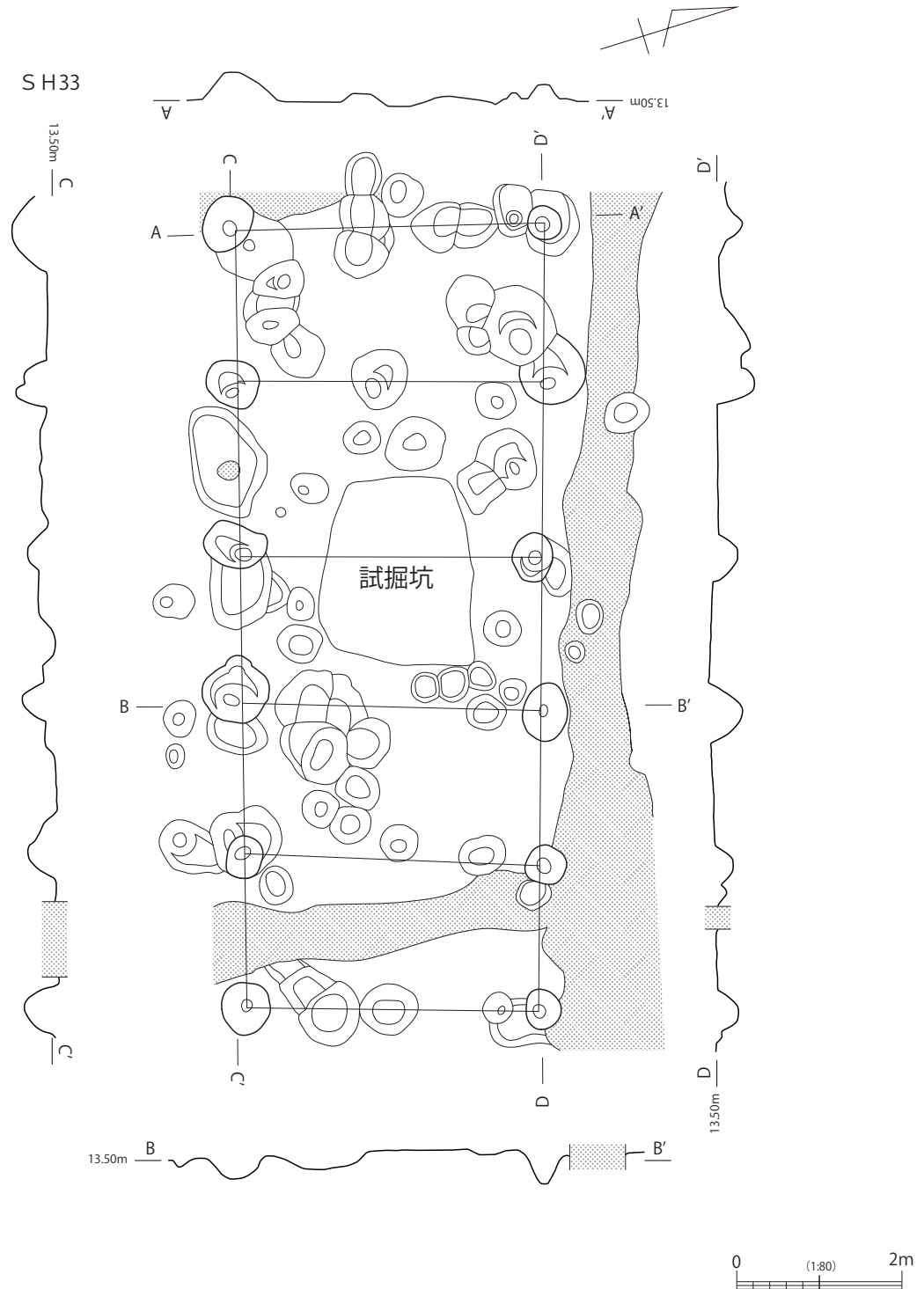


図11. 第16次調査区 SH33

4節 第17次調査区

遺跡の南西部に位置する調査区で、調査時期は令和元年6～8月、面積は763 m²である。西・北側に第23次調査区、東側に第24次調査区、南側に第18次調査区が隣接する。

基本層序は概ね以下の通りである。

I層 黄褐色土 表土

II層 黒褐色土 遺物包含層

III層 明黄褐色土 地山 遺構確認面

III層にて遺構を確認するまでに、表土を0.4～0.6 m除去した。遺構確認面の標高は13.4～14.1 mで、北東から南西方向にかけてゆるやかに傾斜をする。調査区の南西端では攪乱を受けており、遺構面は既に削平されていた。第17次調査区では、方形周溝墓3基、掘立柱建物4棟のほか土坑やピットを検出した。

4-1. 弥生時代の遺構・遺物

S Z 1 (図13)

4方向の溝が揃う4隅切れ型の方形周溝墓。溝間の東西幅8.6 m、南北幅8.7 mとおおよそ正方形の方形周溝墓である。北溝と西溝の一部は攪乱を受け削平されている。西溝は隣接するSZ3東溝と重複している。

北溝は幅0.9 m、長さ3.5 m(残存)、深さ0.2 mを測る。弥生土器片が出土。東溝は幅1.0 m、長さ5.2 m(残存)、深さ0.4 mを測る。東溝からは特に大量の土器片が出土している。溝が半分程度埋没した付近から、弥生時代中期白岩式段階の特徴をもつ壺類が出土している。南溝は全形が唯一残存していて、幅0.9 m、長さ6.5 m、深さ0.5 mを測る。西溝は幅1.0 m、長さ4.6 m(残存)、深さ0.45 mを測る。遺物の出土状況から、弥生時代中期後葉白岩式のものと推測する。

S Z 2 (図14)

北溝・西溝・東溝が揃う、四隅切れの方形周溝墓である。SZ1と隣接するが溝を共有していない。溝間の東西幅11.9 m、南北幅9.1 mを測る。北溝と東溝の間の溝は、出土遺物からSZ2と同時期のものではないと考えられる。

北溝は西端が調査区外へと延びている。幅1.9 m、長さ10 m、深さ0.45 mである。覆土中より弥生時代中期白岩式の特徴をもつ壺が多量に出土している。東溝は幅2.0 m、長さ5.8 m、深さ0.25 mで、南端は攪乱により削平されている。弥生時代中期白岩式の特徴をもつ壺などが出土している。西溝は幅2.2 m、長さ6.1 m、深さ0.3 mである。床面直上より壺底部の底部がついた状態で出土しており、流れ込みではなく据えられた可能性も考えられる。各溝からの遺物の出土状況から、弥生時代中期後葉白岩式のものと推測され、SZ1と大きな時期差はない。

S Z 3 (図15)

SZ1の西溝と同規模の溝が隣接していることから、方形周溝墓である可能性が高いと判断した。溝は幅1.5 m、長さ5.9 m(残存)、深さ0.2 mを測る。覆土は3層に分けることができ、上層から弥生時代中期中葉嶺田式の細頸壺の口縁部が出土している。その後の周辺の発掘調査ではSZ3に対応すると推測される溝と見られる遺構は、第27次調査区で確認されたSZ1南周溝と重複し、調査区外へとおよび土坑状遺構が相当すると考えられるが、西周溝及び南周溝は確認できなかったため、全体形等は不明である。



図 12. 第 17 次調査区全体図 (1:200)

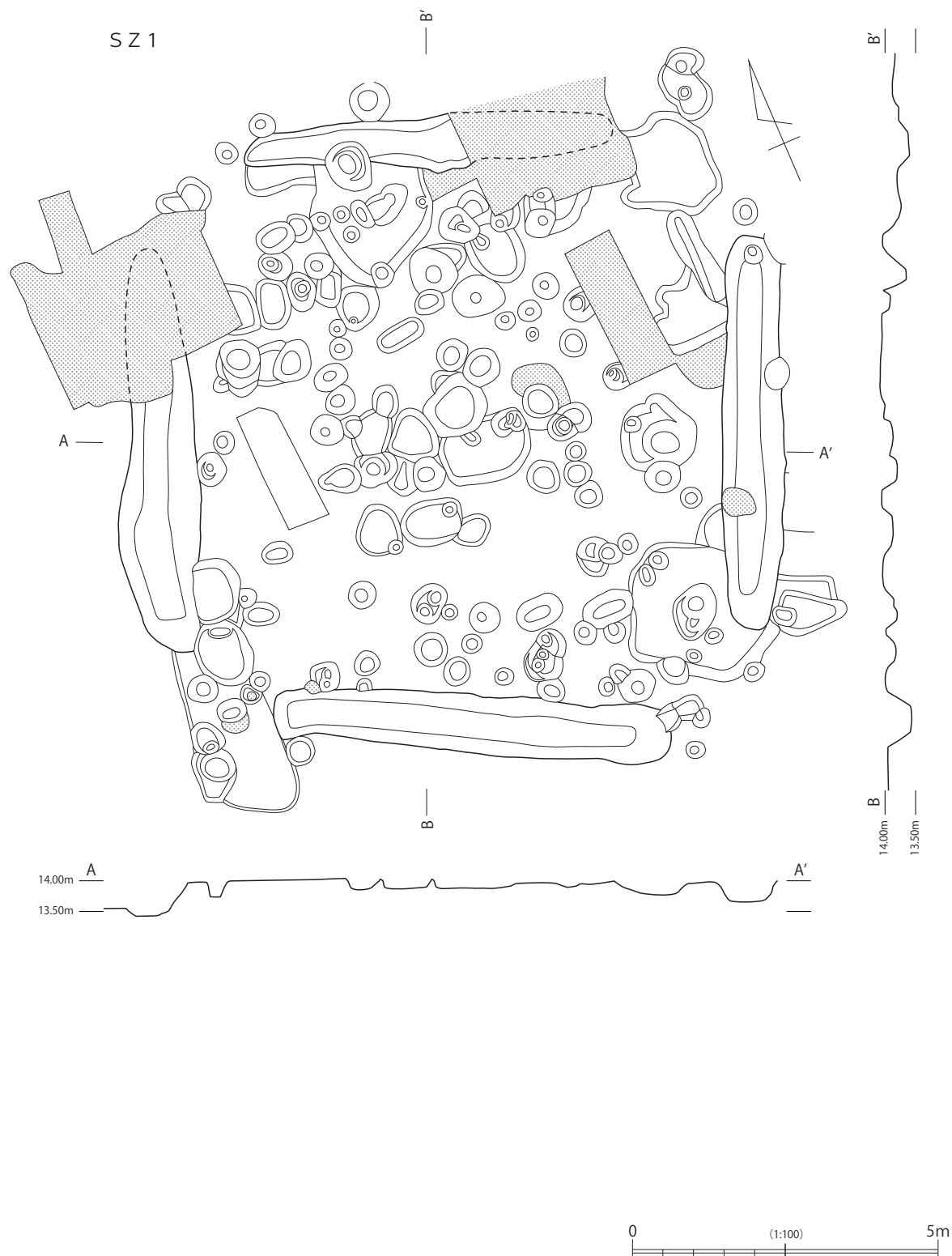


図 13. 第 17 次調査区 SZ 1

S Z 2

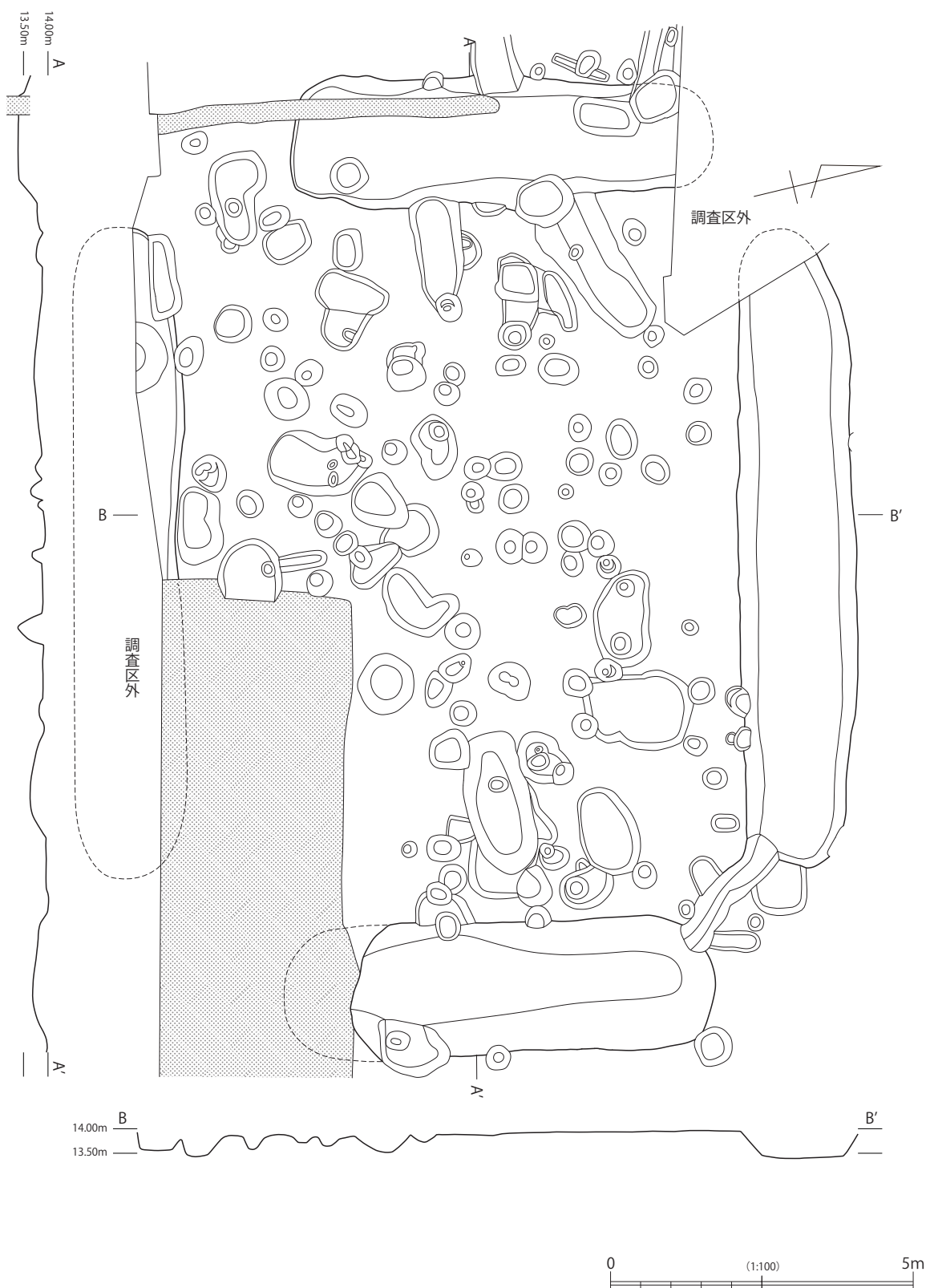


図 14. 第 17 次調査区 S Z 2

SK11 (図 16)

SZ1 東溝と重複する位置にある土坑で、SZ1 の覆土を切り込んで造られた。長径 2.4 m、短径 2.1 m を測り、中央部が最も深くなるように窪んでいて深さ約 0.4 m である。SK11 の覆土からは多量の弥生土器片が出土した。土器は中央部に集中していて、いずれも弥生時代後期菊川式の特徴をもつ、一括性の高い資料である。壺、高坏、台付甕など複数の器種がみられるが、50% 以上に復元できるものはない。土器が集中して出土した箇所より、銅鐸形土製品が出土している。共伴する土器の状況などから、廃棄坑の可能性はある。

SK12 (図 16)

長径 2.9 m、短径 1.3 m、深さ 0.3 の長楕円形の土坑である。床面付近で嶺田式の甕片が出土している。土坑の形状や遺物の時期から、墓墳である可能性が高い。

SK13 (図 16)

長径 2.3 m、短径 1.0 m、深さ約 0.3 m の楕円形の土坑である。出土遺物は弥生土器の破片とともに焼土のブロックが出土している。

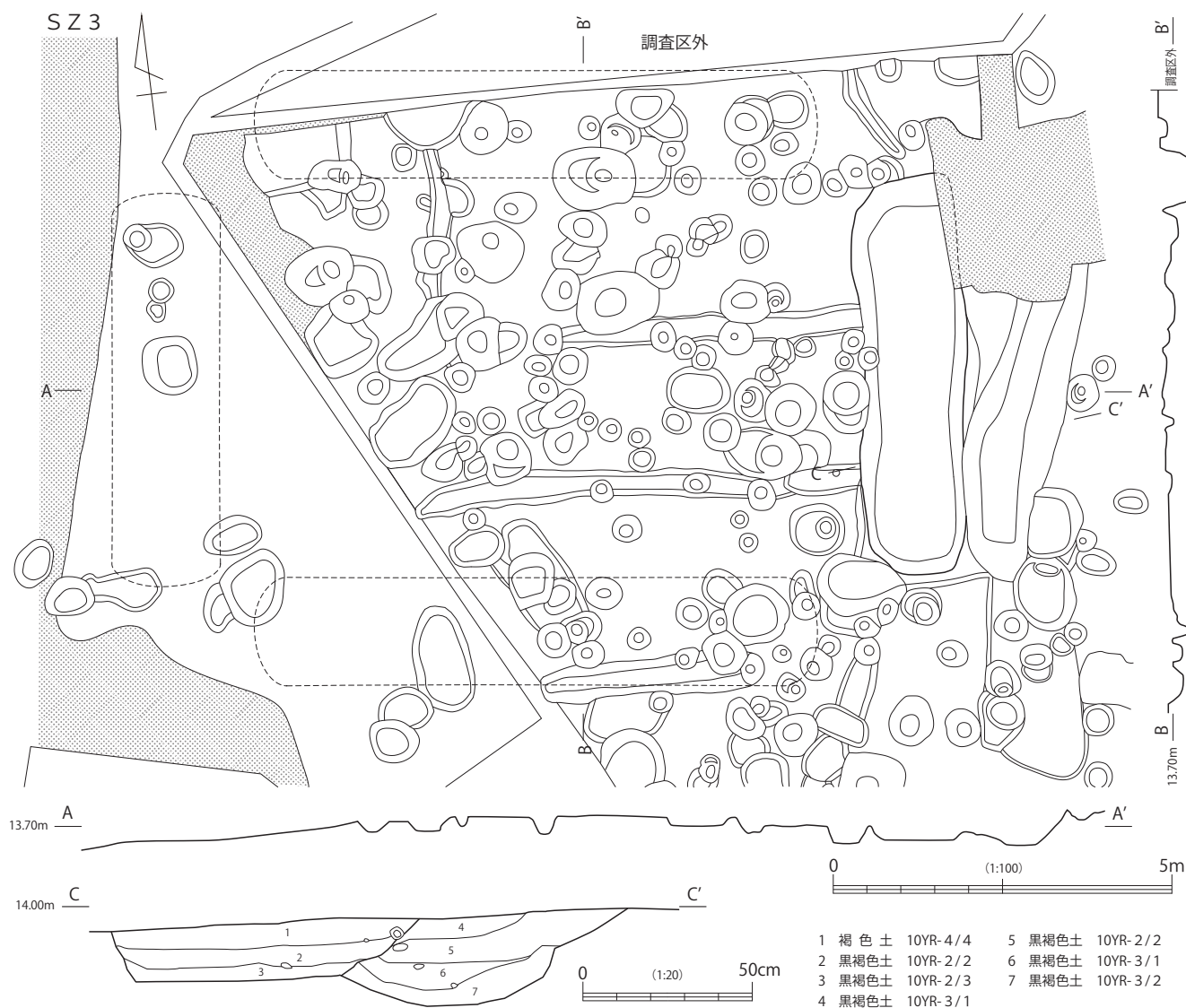


図 15. 第 17 次調査区 SZ 3

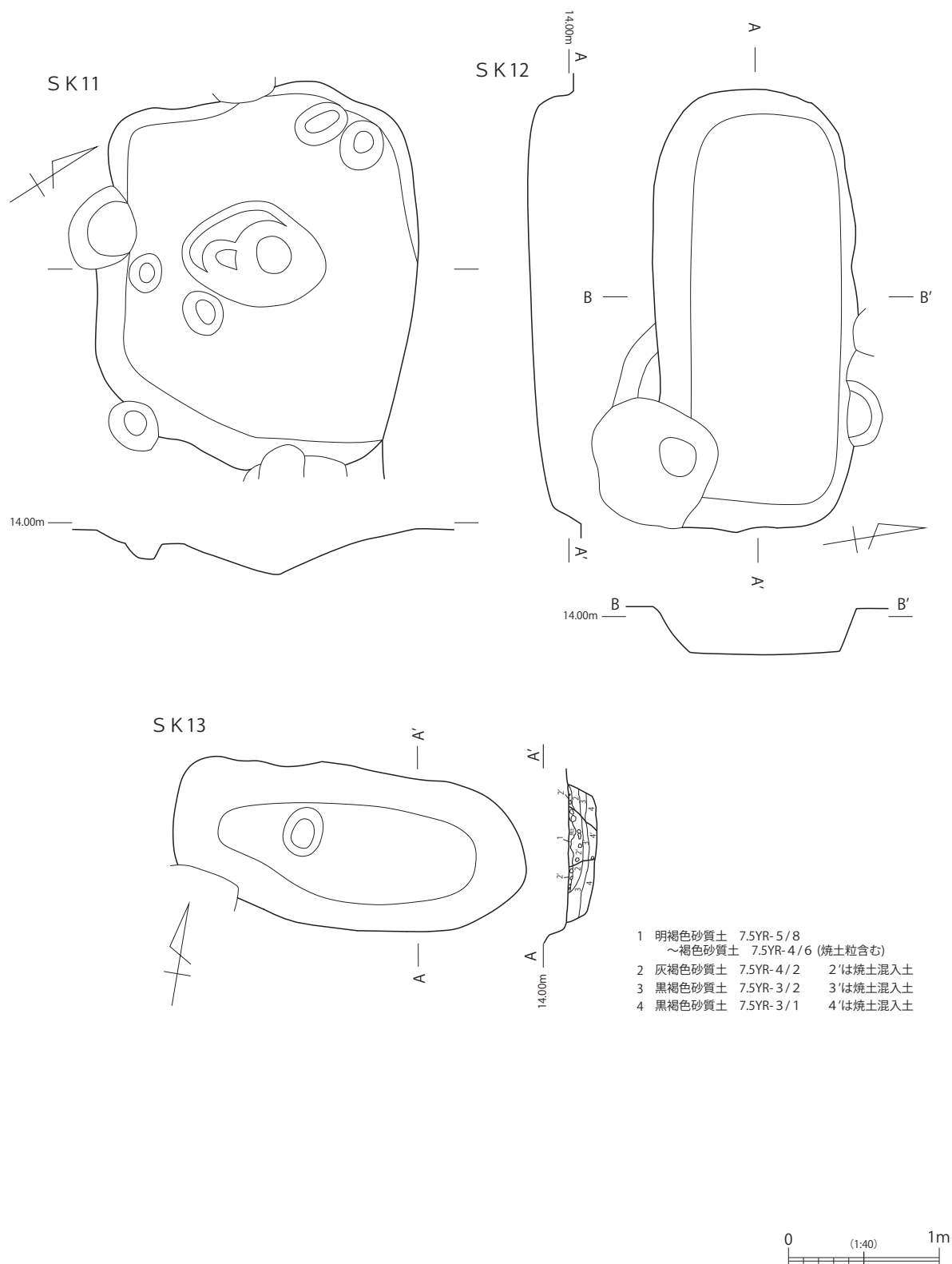


図 16. 第 17 次調査区 SK 11 ~ 13

S H34 (図 17)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-9°-Wである。遺構規模は梁行3.9m、桁行4.5mを測り、柱間2.4～3.1m、柱穴径0.5～0.75m、深さ0.3～0.55mである。

S H35 (図 18)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-1°-Eである。遺構規模は梁行3.9m、桁行4.5mを測り、柱間2.4～3.5m、柱穴径0.5～0.8m、深さ0.2～0.36mである。遺物も弥生時代後期菊川式と見られる土器片が出土している。

S H36 (図 18)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-5°-Wである。遺構規模は梁行3.7m、桁行3.9mを測り、柱間2.3～2.5m、柱穴径0.65～1.2m、深さ0.2～0.4mである。

S H37 (図 19)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-1°-Eである。遺構規模は梁行4.1m、桁行4.8mを測り、柱間2.9～3.6m、柱穴径0.4～0.85m、深さ0.14～0.24mである。中央に焼土痕があり、この掘立柱建物に伴う炉跡の可能性はある。

S K14 (図 18)

SZ1北溝の覆土を掘りこむ土坑。長径2.0m(残存)、短径1.95m、深さ約0.3mを測る。遺物も弥生時代後期菊川式の特徴を持つことから、SZ1の後に作られたものであることが分かる。

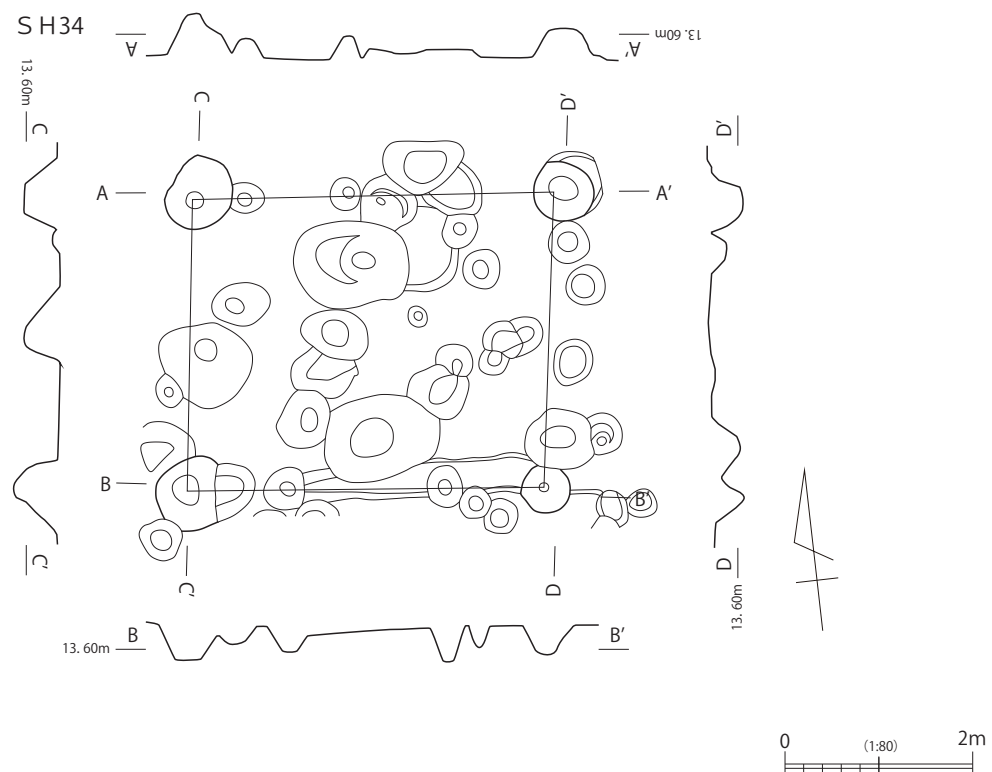
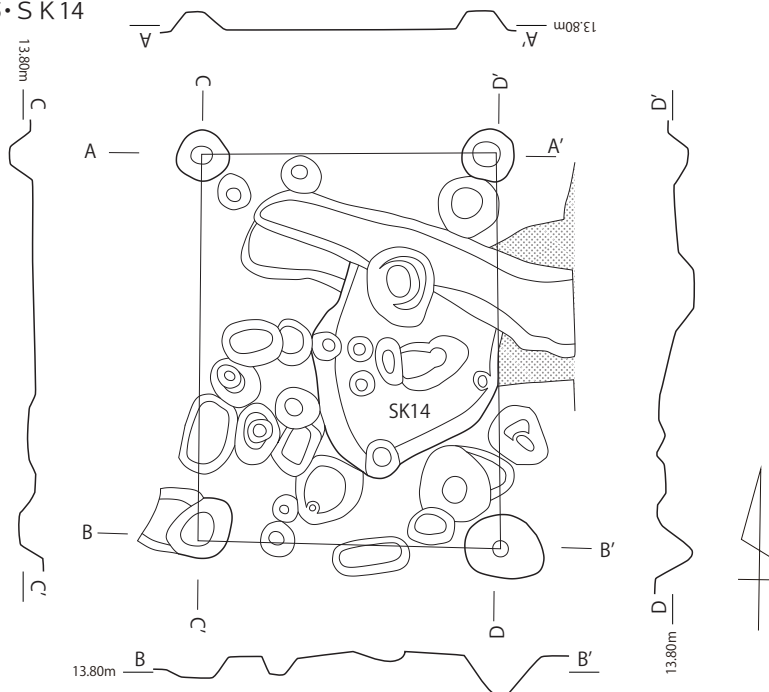


図 17. 第17次調査区 S H 34

SH35・SK14



SH36

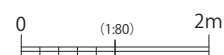
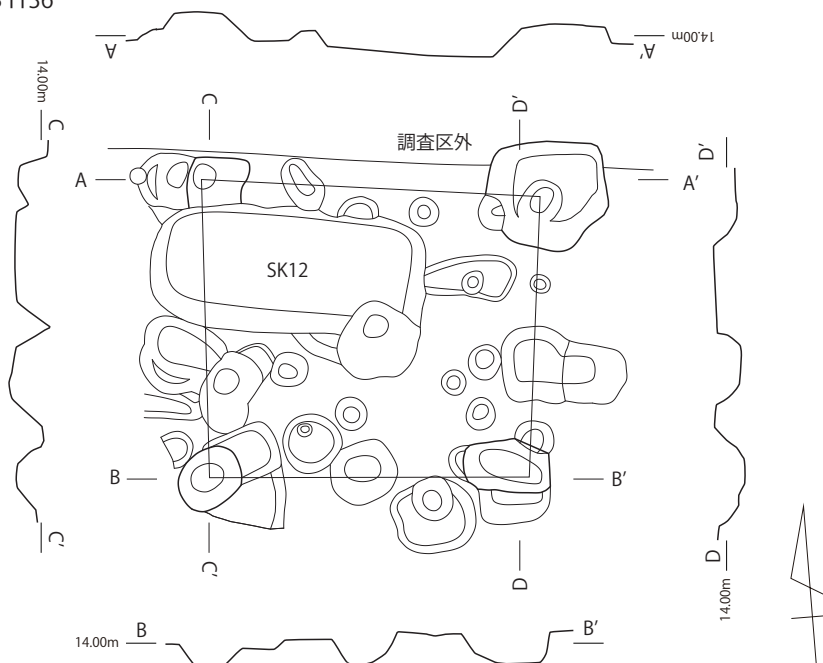


図 18. 第 17 次調査区 SH 35・36 SK 14

4-2. 古墳時代の遺構・遺物

S P 17-001 (図 19)

長径 0.8 m、短径 0.75 m の楕円形のピットで、深さは 0.38 m を測る。南北方向に長軸を持ち隅丸ひし形の平面形を持つ。床面より古墳時代前期の壺がほぼ完形で出土した。

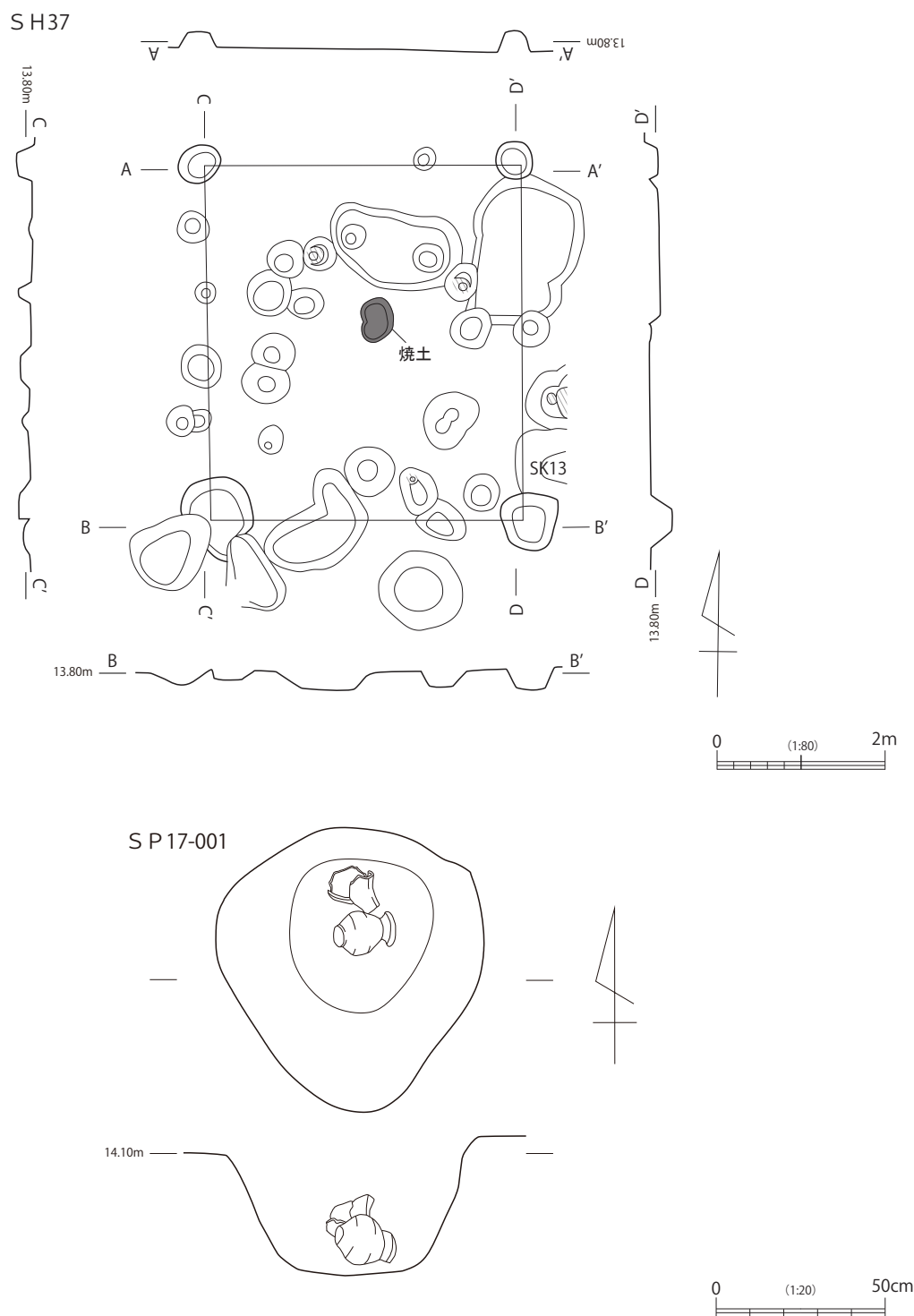


図 19. 第 17 次調査区 SH 37 SK 13 S P 17-001

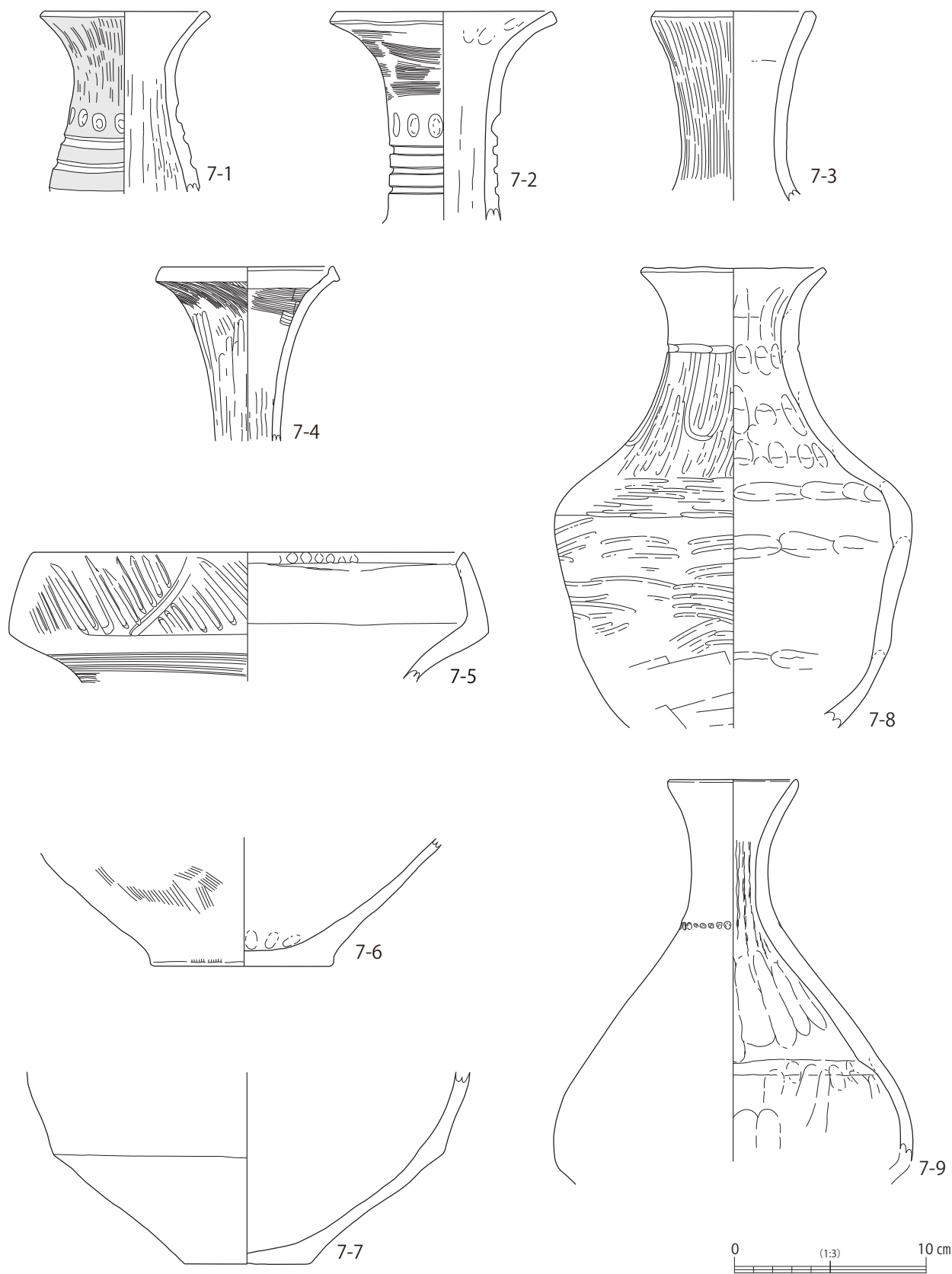


図 20. 第 17 次調査区 遺物実測図 1

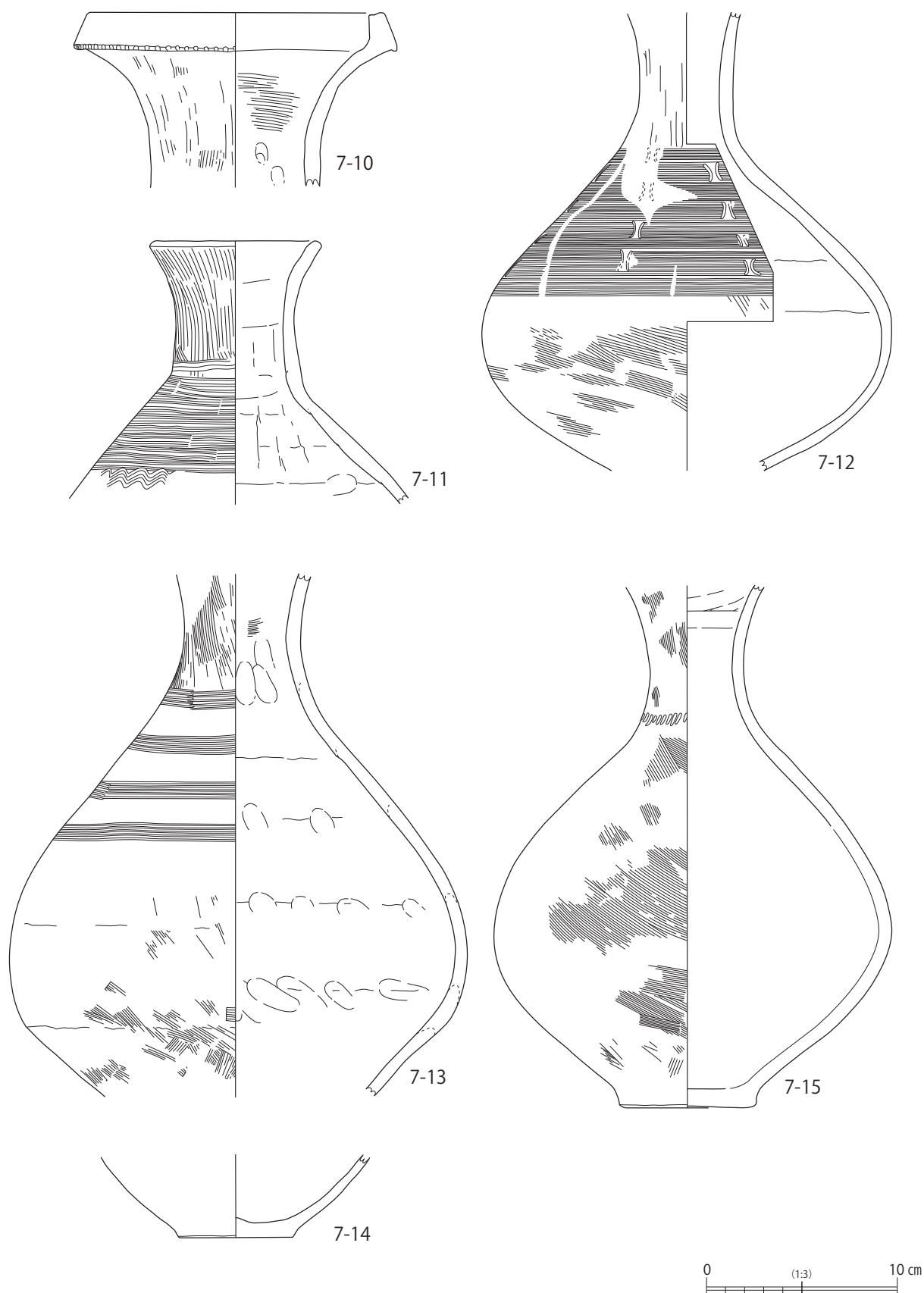


図 21. 第 17 次調査区 遺物実測図 2

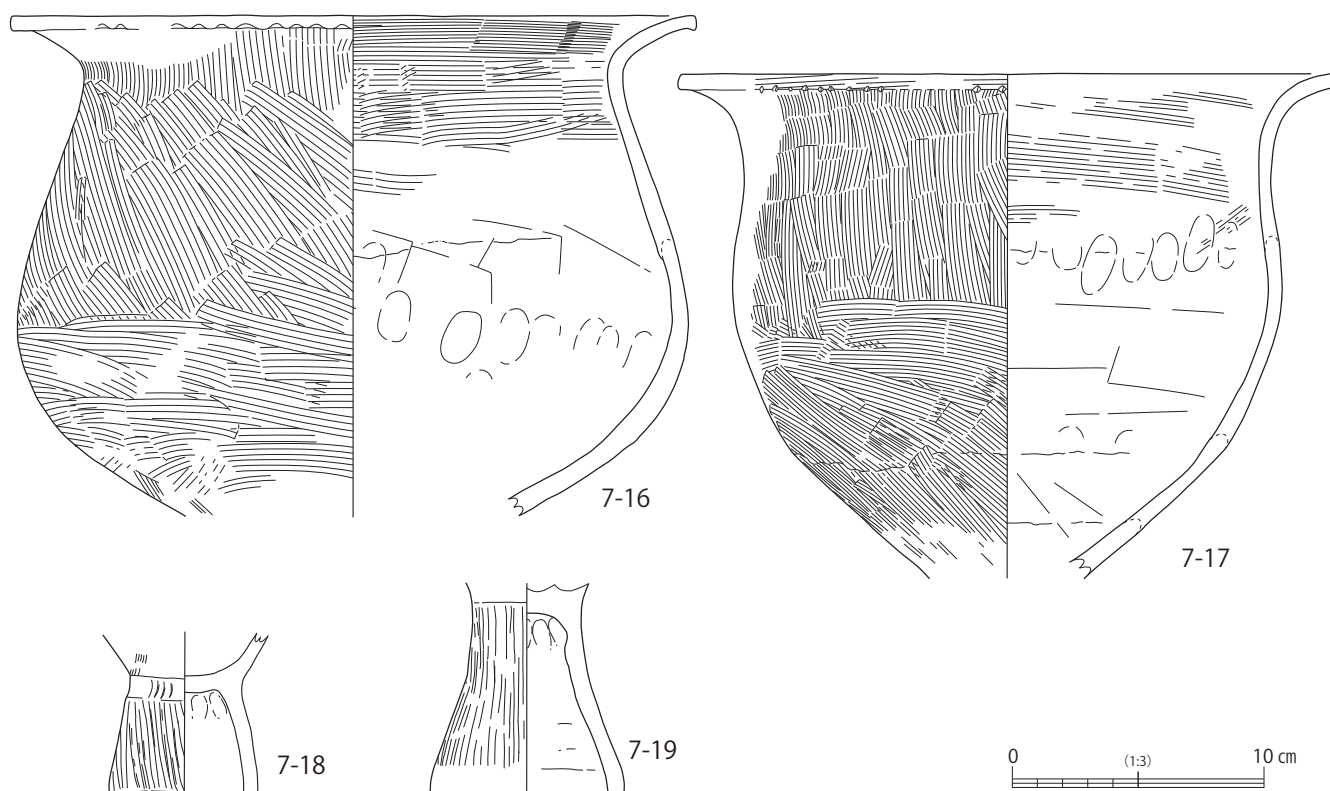


図 22. 第 17 次調査区 遺物実測図 3 SK 11 出土写真

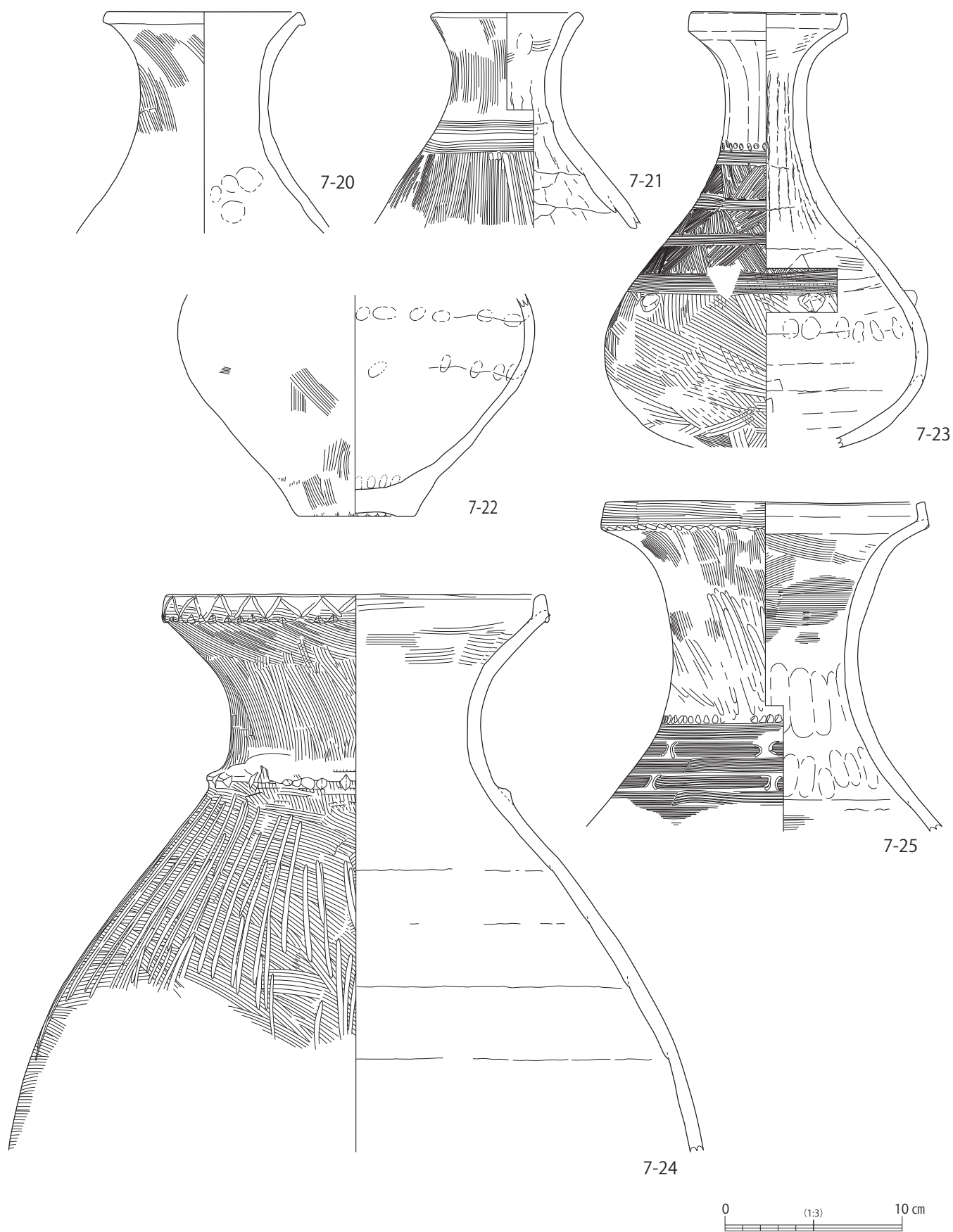


図 23. 第 17 次調査区 遺物実測図 4

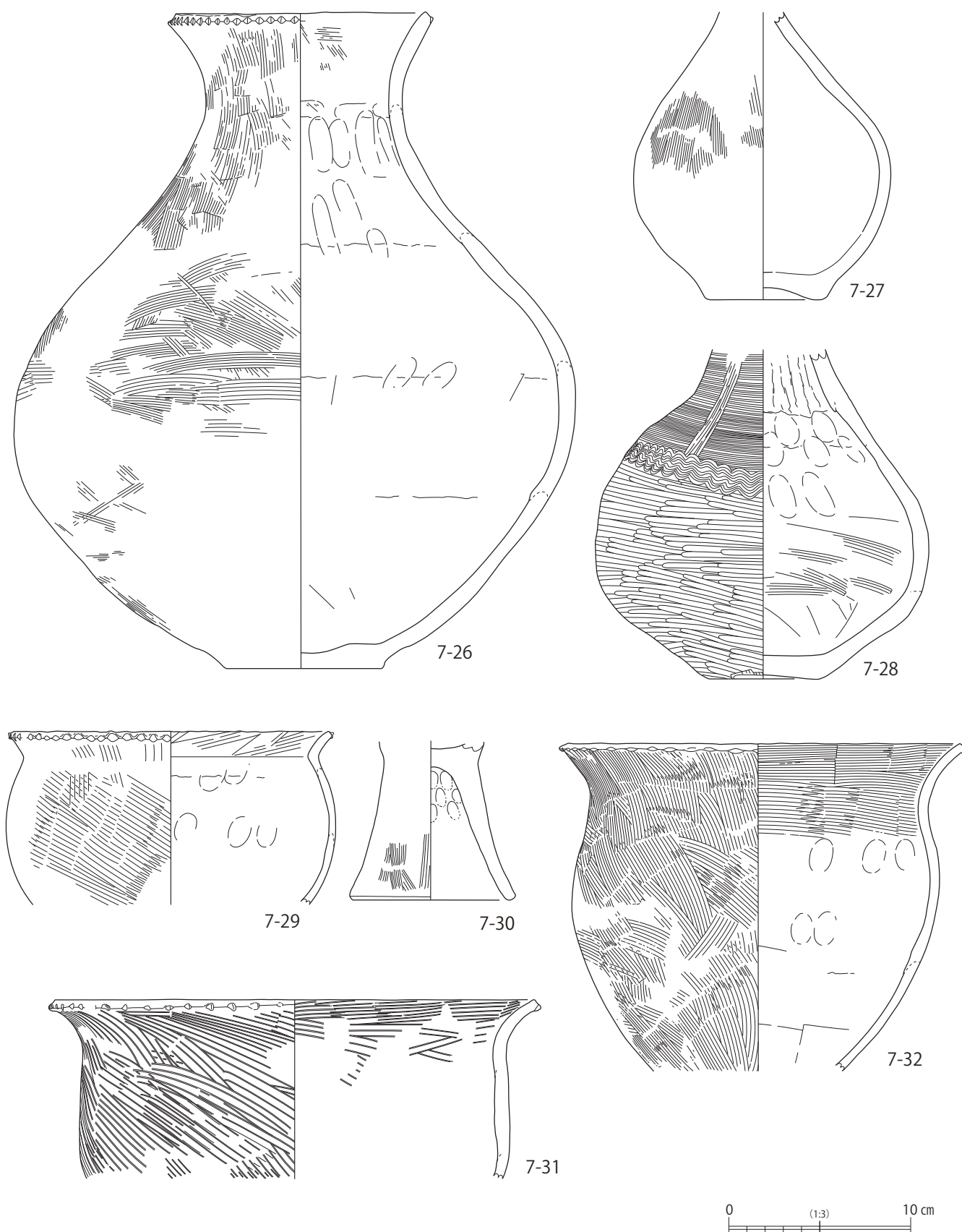
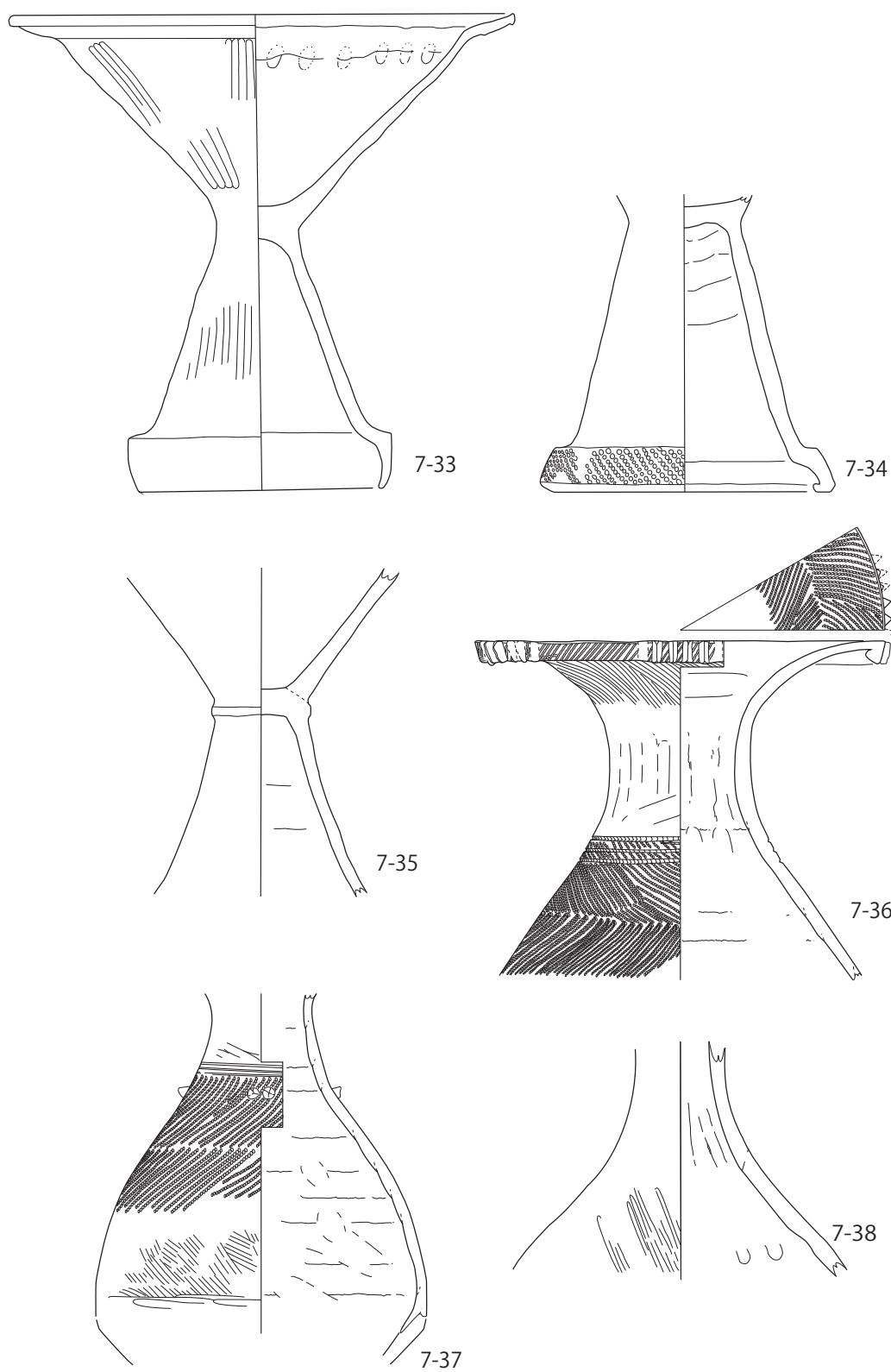


図 24. 第 17 次調査区 遺物実測図 5



0 (1:3) 10 cm

図 25. 第 17 次調査区 遺物実測図 6

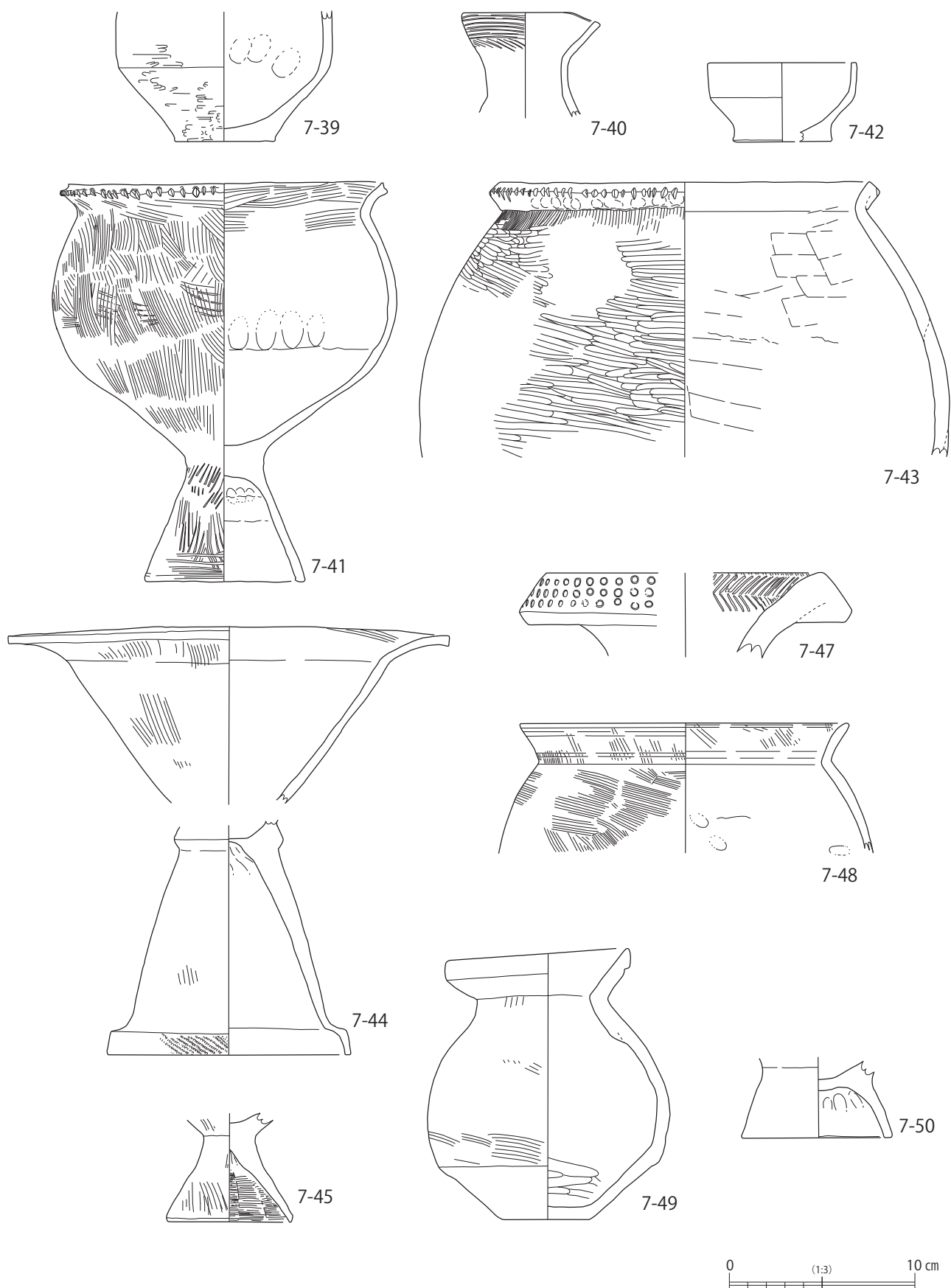


図 26. 第 17 次調査区 遺物実測図 7

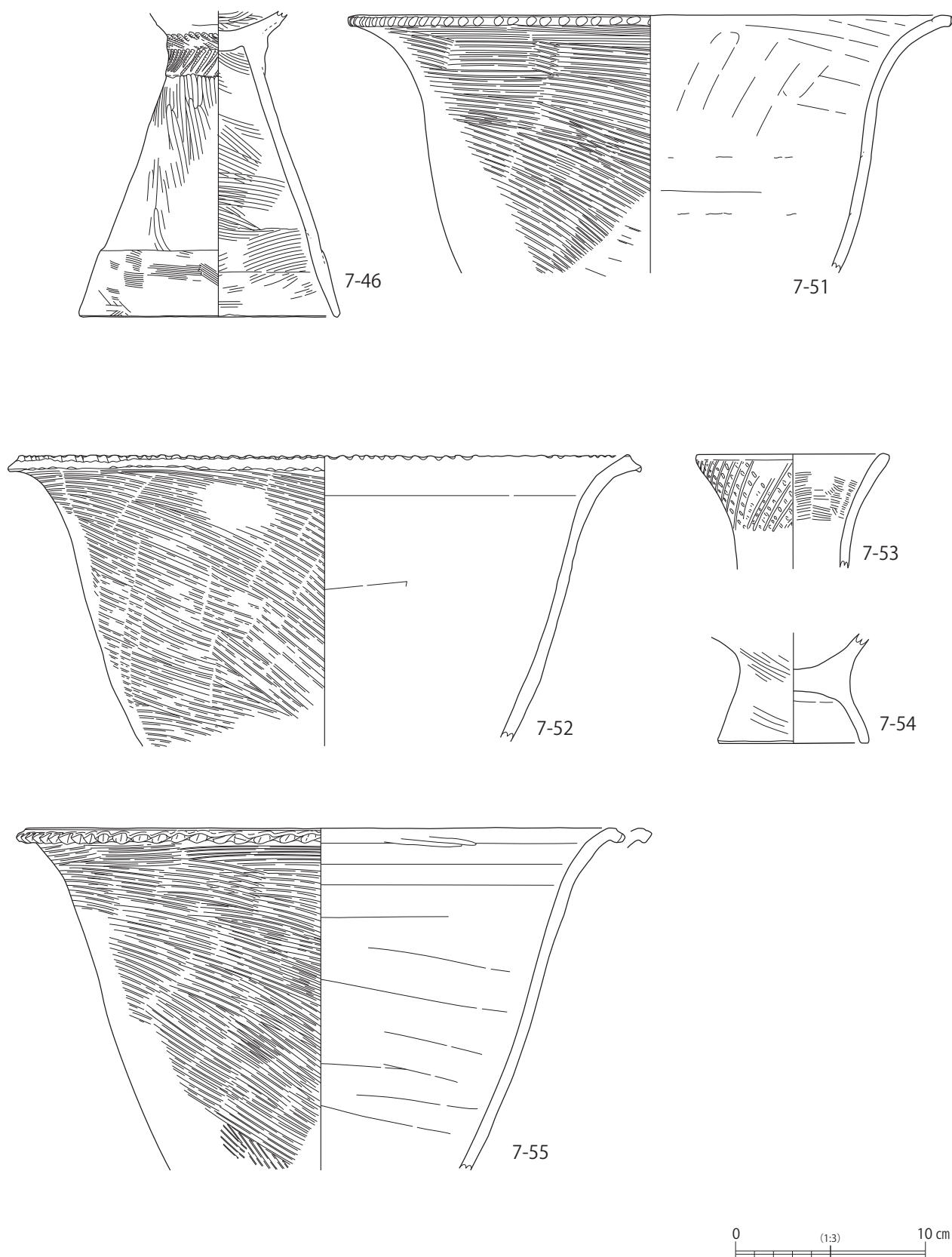


図 27. 第 17 次調査区 遺物実測図 8

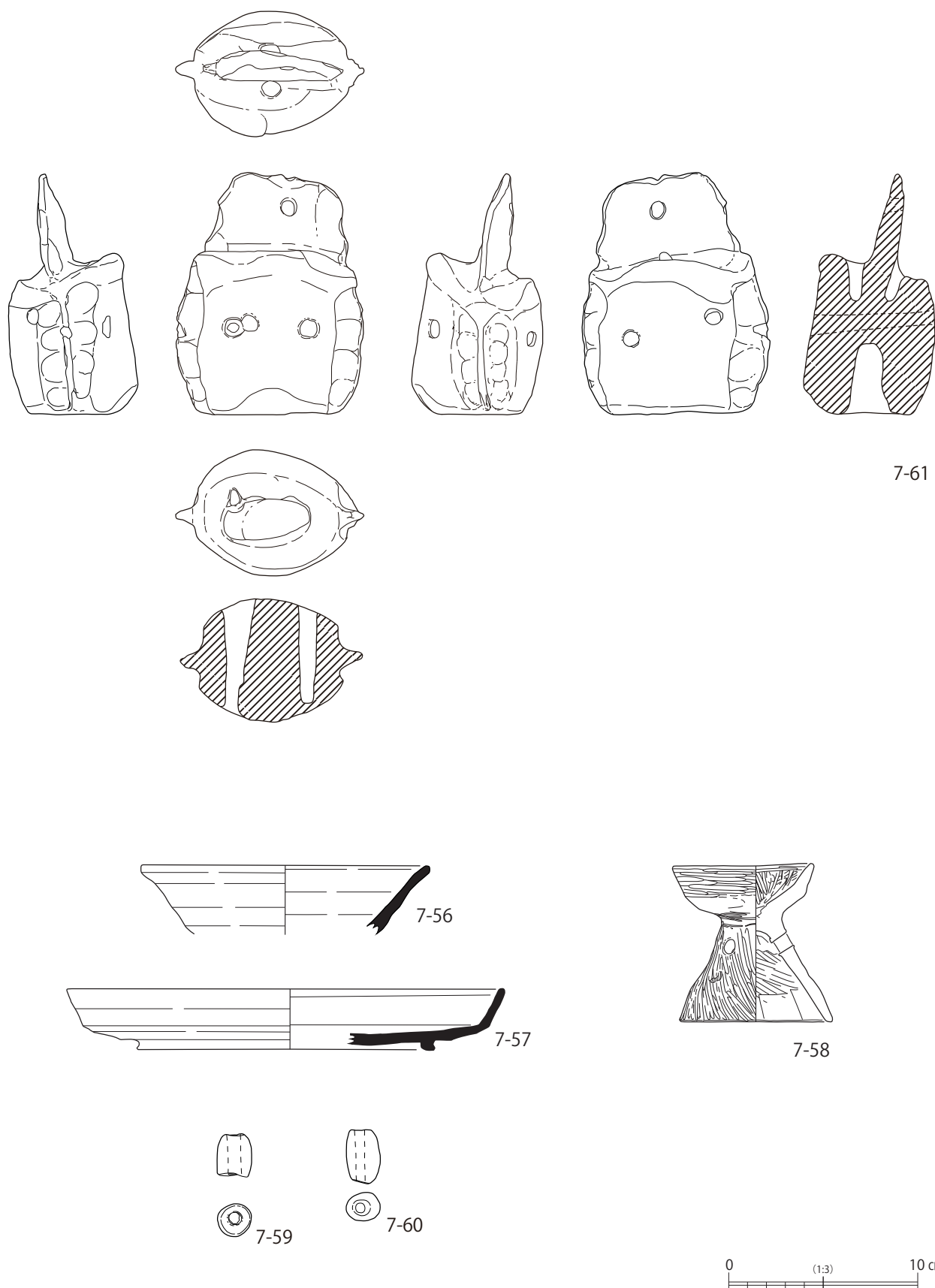


図 28. 第 17 次調査区 遺物実測図 9

5節 第18次調査区

遺跡の南西部に位置する調査区で、調査時期は令和元年8～10月、面積は989 m²である。コの字形の調査区の内側に第16次調査区、東側に第19次調査区、北側に第17次調査区が隣接する。

基本層序は概ね以下の通りである。

- I層 黄褐色土 表土
- II層 黒褐色土 遺物包含層
- III層 明黄褐色土 地山 遺構確認面

III層にて遺構を確認するまでに、表土を0.4～0.5 m除去した。遺構確認面の標高は13～13.8 mで、北東から南西方向にかけてゆるやかに傾斜をする。丘陵の南西端にあたることから、他の調査区と比較して傾斜は強い。第18次調査では、竪穴住居1軒、掘立柱建物4棟のほか土坑やピットを検出した。

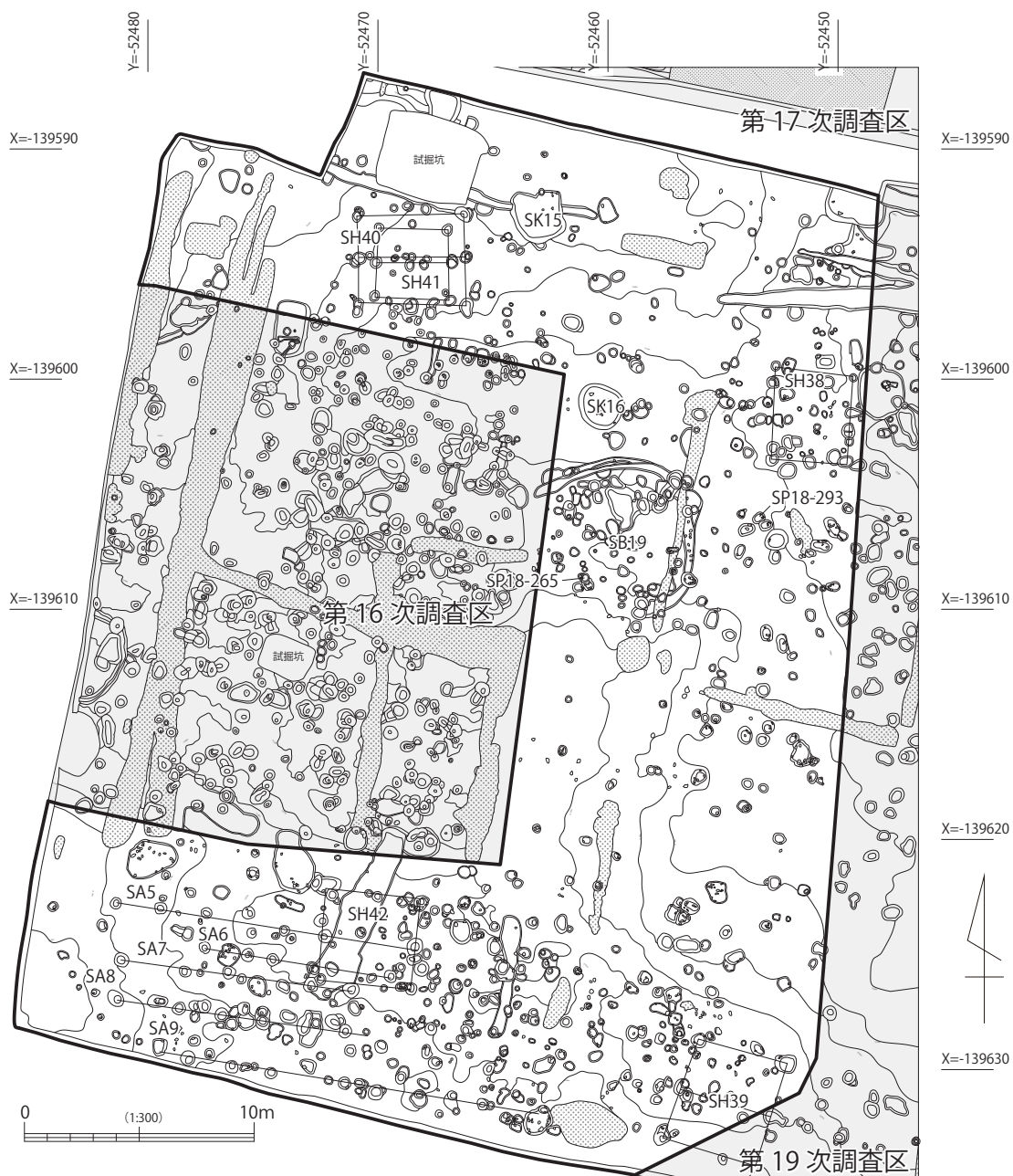


図 29. 第18次調査区全体図 (1:300)